

学校法人 宇部学園

所在地：宇部市西琴芝二丁目 12 番 18 号
電 話：0836-34-1111

【学園データ】

理事長：二木 寛夫
創 立：1945 年（昭和 20 年）
創立者：二木 謙吾

【宇部学園の使命（ミッション）】

建学の精神「至誠」を具現化した教育を基盤として、多様な価値観に触れる教育活動の実践を積み重ね、時代の変革に対応し、地域社会に貢献できる人材を育成します。

【ご挨拶】

学校法人宇部学園は 1945 年（昭和 20）、初代理事長二木謙吾が郷土の先覚吉田松陰先生の至誠に徹した生涯に感銘を受け、その「至誠」の心を建学の精神と定めて財団法人宇部女子商業学校を設立したことに始まります。

学園の設置する山口学芸大学、山口芸術短期大学、慶進中学校・高等学校、成進高等学校、亀山幼稚園、宇部中央自動車学校は、いずれも建学の精神「至誠」を踏まえ、それぞれ特色ある教育を行ってまいりました。

近年、社会は多様化、複雑化し、先行きを予測することが困難な時代を迎えています。2021 年（令和 3）、学園は 10 年後の 2030 年の社会を念頭に置き、学園の出発点である建学の精神「至誠」を再定義し、併せて、この「至誠」のもと、学園の各学校が社会の要請と期待に応える教育機関として発展することを期して、『「至誠」の心の継承と、社会変化や多様性への対応』をテーマに掲げた中長期計画「宇部学園ビジョン 2030」を策定しました。

宇部学園は地域社会と連携・協働しながら、「至誠」の心を軸としたこれまでの学園教育のよさを継承・発展させるとともに、Society 5.0 の時代に求められる新たな資質・能力を兼ね備えた人材の確実な育成に努め、広く社会に貢献します。そして、これらによって、地域社会の発展に不可欠な存在として躍進していくことをめざします。

今後とも宇部市をはじめ地域社会の皆様のご期待に応えることができますように学園の運営に取り組んでまいります。

学校法人宇部学園理事長 二木 寛夫

【学園のあゆみ】

1945 年 3 月 (昭和 20)	財団法人宇部女子商業学校設立、二木謙吾が理事長に就任	
1948 年 3 月 (昭和 23)	学校名を宇部学園女子高等学校に改称、宇部学園女子中学校を併設	
1951 年 3 月 (昭和 26)	財団法人の寄付行為により学校法人宇部学園設立	
1965 年 4 月 (昭和 40)	学校名を宇部女子高等学校、宇部女子中学校に改称	
1966 年 4 月 (昭和 41)	宇部女子高等学校美祢分校(美祢市)を設置、宇部中央自動車学校(宇部女子高等学校自動車練習場)を設置	
1968 年 4 月 (昭和 43)	山口芸術短期大学(音楽科・生活芸術科)を設置(旧小郡町、現山口市)	
1974 年 4 月 (昭和 49)	山口芸術短期大学に幼児教育科を設置	
1976 年 4 月 (昭和 51)	宇部女子高等学校美祢分校を独立校として、美祢中央高等学校を開校	
1989 年 3 月 (平成元)	亀山幼稚園(山口市)を宇部学園に設置者変更	
2002 年 4 月 (平成 14)	宇部女子高等学校を慶進高等学校と改称し、男女共学化、美祢中央高等学校を男女共学化	
2003 年 4 月 (平成 15)	山口芸術短期大学保育学科に学位授与機構認定の専攻科(2年制)を設置	
2004 年 4 月 (平成 16)	慶進中学校を併設し、中高一貫教育を開始	
2007 年 4 月 (平成 19)	山口学芸大学(教育学部子ども教育学科)を山口芸術短期大学と同敷地内に設置、美祢中央高等学校を成進高等学校に改称	
2007 年 10 月 (平成 19)	成進高等学校に通信制課程普通科を設置	
2011 年 4 月 (平成 23)	山口学芸大学に大学院を設置	

慶進中学校・高等学校

宇部市西琴芝二丁目 12 番 18 号
TEL 0836-34-1111



明治維新に大きな影響を与えた郷土の先駆者である吉田松陰先生の、幕末期、至誠を貫いた気概ある行動が、多くの人々を動かし、近代日本の扉を開いた。

二木謙吾初代理事長は、郷土の先覚者である吉田松陰先生の「至誠」の心を建学の精神と定められた。

「至誠」とは、「真心(まごころ)を尽くす」、「自らが授かったかけがいのない天分を、渾身の努力を尽くして最大限伸ばし高め、社会に貢献しようとする、人としてのあり方」

【校訓】

一、独立自尊

自分を大切に、個性を磨き、特技・特性の習得や能力の向上により生きる力をつける。

一、至誠一貫

夢を抱き、志を立て、一つひとつ目標をめざし、心を込めて努力する。

一、敬愛感謝

他人と関わり、人としての在り方や生き方を考え、豊かな情操と社会性を養う。

【ご挨拶】

「慶進」という校名には、本校で学ぶ生徒一人ひとりが慶びに満ちて進む学校でありたいという「夢」と、生徒一人ひとりの慶びや実り多い指導に進取の精神で取組みたいという「情熱」が込められています。

本校では、建学の精神「至誠」を基に、三つの校訓「独立自尊」、「至誠一貫」、「敬愛感謝」を具現化した教育をとおして、強い志を持ち、高い学力と人間力を備え社会に貢献し、地域のリーダーとなる人材を育てることを目標としています。

アドバンス・グローバル・中高一貫コースの生徒が互いにコースの特色を活かして切磋琢磨し、自分の将来の目標(夢)の実現に向けて力をつけていきます。学業のみならずキャリア学習やさまざまな活動への参加を通じて、社会における自己の役割を考えることで、これまで漠然としていた願いや思いが確かな夢や理想にかわり、強い志へと昇華してゆくこととなります。志こそ努力の原動力です。

社会は激変しています。求められる力も変化しています。時代に即した課題発見・解決能力、柔軟な思考力そしてチャレンジ精神を育てるため教職員一同一丸となって日々取り組んでいます。

校長 花田 崇

宇部中央自動車学校 TEL 0836-31-1717

宇部市西琴芝一丁目8番31号



山口学芸大学

TEL 083-972-3288

山口芸術短期大学

TEL 083-972-2880

山口市小郡みらい町一丁目7番1号



亀山幼稚園

TEL 083-924-7571

山口市道場門前町一丁目9番14号



成進高等学校

TEL 0837-52-1350

美祢市大嶺町東分3294番地



独立行政法人国立高等専門学校機構 宇部工業高等専門学校

National Institute of Technology(KOSEN), Ube College

所在地：宇部市常盤台 2 丁目 14 番 1 号

電話：(0836) 31-6111(代表)

ホームページ：<https://www.ube-k.ac.jp/>



挑戦し、探究し、高く羽ばたく宇部高専



校長：山川 昌男 (第11代)

創立：1962年4月1日

【ご挨拶】

校長 山川昌男

高等専門学校(高専)は、これからの社会が求める技術者、研究者の養成を目的として、中学校の卒業生を受け入れ、5年間の一貫教育を行う高等教育機関です。

本校では、学生の主体的な学びを促し、グローバルな社会で活躍できる創造力と実践力を持つ人材を育成するため、知識の習得のみならず、実験・実習を重視した教育を行っています。2017年に4学期制を導入し、学年・学科横断のグループワークや地域の具体的課題を解決する科目も設置し、知識を実践に活用し、論理的な思考力と課題に真摯に向き合う姿勢を身につけることができます。

特に近年は国際交流を積極的に推進しています。本校と学術交流協定を結ぶ海外の大学等から毎年約40名の短期留学生を受け入れている一方で、毎年100名を超える本校の学生が1か月程度の短期留学を行い、語学研修や研究活動を行っています。

本校は、1962年の創設以来、約9,000人の優れた人材を輩出し、卒業生は、技術者、研究者、経営者として日本のみならず世界中で活躍しています。

【校章】



本校は、常盤湖西岸にあります。常盤湖の白鳥は、周囲の松の緑を背景に優雅な姿を常盤湖に浮かべ、宇部市の象徴として私たちの眼を楽しませてくれました。

わが校章は、その白鳥の羽を持ち、中央には勉学を意味するペン先をえがき、産業の興隆と文化の発展に雄々しく羽ばたく姿を表しています。

【シンボルマーク】



本校の創立50周年を記念して作られました。

宇部高専の頭文字Uを未来へ向かって羽ばたく躍動感を持って表し、そのU字の中に光と希望を示す星型のモチーフを配しています。

【教育理念】

Be human, be tough and be challenge-seeking

あらゆる社会活動を営む上で人間及び社会人としての倫理が全てに優先します。

宇部工業高等専門学校は、次の教育理念を掲げて、準学士課程及び専攻科課程の学生を育成します。

1. 温かい人間性と豊かな国際性を備え、
2. 創造的目標に対して常に向上心をもって、
3. 果敢に粘り強く努力を傾注できる
人材を育成する。

【教育方針】

教育理念に則り、次の教育方針によって、準学士課程及び専攻科課程の学生を教育します。

1. 豊かな心と優れた感受性を持ち、学生として自主的な責任ある行動と規律正しい生活ができる人間に育てる。
2. 自らの専門分野の知識と幅広い知識を持ち、適切な手段を用いて課題解決に対応できる人間に育てる。
3. 実技教育を重視し、理論に裏打ちされた創造力と豊かな国際性を身につけた実践的な能力ある人間に育てる。
4. “もの”を新たに創造するために必要な総合的な能力を有する人間に育てる。

【宇部高専のあゆみ】

1961年6月2日	本校の前身である宇部工業短期大学が開学
6月30日	「高等専門学校設置基準」公布
1962年1月10日	宇部を含め12の国立工業高等専門学校の設置が決定
2月15日	入学生募集（機械工学科80名、電気工学科40名）志願者数1,712名（入試出願倍率14.4）
4月1日	宇部工業高等専門学校が開校（機械工学科、電気工学科）
1964年3月25日	学生寄宿舎（学寮）を新築
1966年4月1日	工業化学科を設置
1971年3月26日	図書館棟を新築
1988年4月1日	機械工学科の定員80名を40名に分割し、制御情報工学科を設置
1989年3月23日	総合技術教育センターを新築
1990年4月1日	工業化学科を物質工学科に改組
4月10日	女子寮を設置
1992年4月1日	工学に関する学科以外の学科設置に関する高等専門学校設置基準の一部改正に伴い、経営情報学科を設置
1997年4月1日	専攻科（生産システム工学専攻、物質工学専攻）を設置
1999年3月26日	専攻科棟を新築
2001年2月9日	宇部高専テックアンドビジネスコラボレイト設立
2003年12月16日	総合技術教育センターを増築し、地域共同テクノセンターに改組
2004年4月1日	独立行政法人国立高等専門学校機構に移行
2005年4月1日	専攻科経営情報工学専攻を設置
5月12日	創造デザイン工学教育プログラムが日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定
2011年4月1日	キャリア支援室、国際交流室発足
2012年10月10日	【創立50周年記念式典挙行】
2017年4月1日	4学期制を導入 高専機構から海外展開事業ベトナム国協力支援幹事校に指定
2019年3月29日	グループワーク教育のために、学生会館2階をラーニングcommonsに改修

【学科紹介】

＜機械工学科＞ 機械技術者は工業製品を生産するすべての分野で必要とされ、職種も研究開発、設計、生産技術、設備保全など広範囲にわたります。近年では、コンピュータ技術の発達により、ほとんどの機械がコンピュータで制御されるようになり、機械技術者には電子制御技術やコンピュータのプログラミングに関する知識も求められています。機械工学科では、産業界で中堅技術者となる人材の育成を目標に、①機械を設計製作するための基礎知識、②コンピュータを利用した設計・製図、③エネルギーの有効利用に関する基礎知識、及び、④自動制御技術・情報処理技術の教育を行います。また、修得した幅広い知識を活用するための演習、実習にも多くの時間を割き、さらに独自性、創造性をはぐくむために、卒業研究にも力を注いでいます。

＜電気工学科＞ 電気工学科は、社会生活を支える実践的電気技術者を育成するために、電気・電子回路と電気磁気学による電気の基礎教育を幹として、電力工学、電気機器工学、計測・制御工学、および電子工学、情報工学、通信工学等の電気関連分野を幅広く学べる教育課程を用意しています。また、学生が学んだ理論を実際に確認して身につけるための実験実習と社会の課題を見つけ出して自らが解決して行く卒業研究を重要な科目として位置付けています。特に、卒業研究は持続可能な世界を実現するSDGs達成を目指して取り組んでいます。さらに、一般教養科目と専門科目を有機的に組み合わせ、産業界のグローバル化の進展に対応できるグローバルエンジニアの育成を目指します。

＜制御情報工学科＞ 近年の情報化に伴う技術革新により、家電製品、人型ロボット、車の自動運転など身の回りにある機械の多くは何らかのマイコンを組み込んだ組み込みシステムが搭載されています。

組み込みシステムは汎用のコンピュータシステムとは異なり、電気・電子機器の高度化・複雑化に対応するために導入されるシステムであり、ソフトウェアの対応により機械の開発・生産性を飛躍的に高めることが可能となります。組み込みシステムは家庭用機器、産業用機器、医療用機器、電子制御を必要とするほとんどの製品に用いられています。

制御情報工学科は、組み込みシステムのカリキュラムを設け、ソフトウェアとハードウェアの基礎を学ぶことにより、情報通信技術を駆使し制御することが出来る情報技術者の育成を目指しています。

<物質工学科> 化学工業または生物工業における開発、生産などに係わる実践的技術者を育成します。宇宙や地球を構成する物質は、そのかたちを変えて生命も造っています。人類は、基本物質を組み合わせる生活や生産に必要なものをつくり、現在の豊かな社会を築いています。

物質工学科では、物質の性質や機能を原子・分子のレベルで解明し、原子・分子を組み合わせる新しい物質を設計し生活や産業に役立つ製品の生産に関わる技術者、あるいはエネルギー・資源の有効利用や地球環境の保全に携わる技術者を養成しています。

本学科では、化学品や材料（繊維・プラスチック・半導体など）の設計や製造に関する化学技術者や、生物を用いた食品や医薬品などの検査や製造に関する生物技術者を養成します。

<経営情報学科> 経営情報学科では、経営環境の変化、情報技術の進展、経済のグローバル化などの社会動向に対応するために、実践力をもつ「経営のエンジニア」の育成を目指しています。

本学科の教育内容は、「経営管理知識」、「情報処理技術」、「数理モデルの構築」及び「国際化知識」の4つに分けられます。1年次から3年次までは、経営管理と情報処理技術に関する基礎教育を行います。これらを基礎として、さらに4年次と5年次で経営情報学専門演習などの専門教育を行い、経営情報と数理モデルの融合を図っています。

<一般科> 全学科共通の一般科目では、国語・英語・社会等の文系科目と、数学・理科等の理系科目とを学びます。文系の科目は「人間とはどういうものか」や社会のしくみを理解する上での基礎となるものであり、理系の科目は論理的考えの習得や、将来専門学科で学ぶ専門科目の基礎となるものです。

一般科目に関する両分野の勉学を通して、豊かな人間性を持ち、強靱な精神と創造力を備えた技術者の育成をめざしています。

《専攻科》 専攻科は、5年間の高等専門学校における準学士課程教育の基礎の上に、「精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成すること」を目的として設置され、本校の専攻科には3つの専攻が設置されています。

専攻科では、専門分野の高度な知識・技術だけでなく幅広い知識と能力を持ち、国際的な場で活躍できる技術者を育成することを教育方針としています。

<生産システム工学専攻> 先端工学技術の発展に対応し得る知識を持った独創的で解析力に優れた技術者の育成を目的としています。

産業界は、機械、電気・電子、情報など多分野の学問・技術を理解できる技術者を必要としています。学生に希望する専門科目を幅広く選択させることにより、柔軟な発想のできる技術者を育成します。

<物質工学専攻> 物質変換、エネルギー変換技術、バイオテクノロジー及び環境保全の発展に対応し得る高度な知識と技術を有する技術者の育成を目的としています。

化学工業、バイオテクノロジー、環境保全を中心とする産業界では、多岐にわたる専門分野で活躍できる高度な知識を有する技術者が必要とされています。化学、生物、材料、環境などの各専門分野を履修し、これらの分野に対応できる技術者を育成します。

<経営情報工学専攻> 経済社会と情報技術の発展に対応し得る高度な知識と技術を有する技術者（経営のエンジニア）の育成を目的としています。

この分野での産業界が要請する技術者は多様です。これに対応できるように、学生の希望に応じて経営、情報、数理などの各専門分野を履修できるようにし、幅広い知識を備えた技術者を育成します

【付属施設】

<地域共同テクノセンター> 本センターは、本校の研究活動と地域貢献活動を円滑に遂行するために設けられた施設です。

研究活動は、民間企業などとの共同研究や研究交流を推進するとともに、本校の教育研究の発展に寄与することを目的として、技術相談やテクノフェア等での教職員による研究紹介、研究シーズと企業シーズのマッチング活動等を行っています。

地域貢献活動は、地域社会における産業技術の振興と発展に貢献することを目的として、公開講座と市民文化サロンの開催、宇部まつり等の地域イベントへの出展を行っています。

<図書館> 図書館は、総合的な学習・情報センターとして充実した知の広場を目指して、約12万冊の蔵書と閲覧席や学習席を整備しています。そして、教員の教育・研究や学生の卒業研究を支えられるように図書館資料の収集、学術の最新動向を把握するために蔵書検索サービスも充実させています。また、地域貢献として地域住民の方々の利用も可能としています。

＜実習工場＞ 実習工場では、優れた技術者の育成には「見る・聞く」だけではなく、実際に体験することが重要であることを念頭に、機械加工の知識と技術の習得を目的とし、旋削、フライス盤、NC工作機械、アーク溶接等の設備を有し、学生の教育に貢献しています。実習工場は、工作実習の他に、卒業研究などの試験片や実験装置などの製作、高専ロボットコンテストのロボット製作など広範囲にわたって利用されています。

＜情報処理センター＞ 本情報処理センターは、技術者として必要となる情報処理技術の実技演習を支援するための施設です。センターには、python や C 言語等を用いたプログラミングや、CAD ソフトを用いた設計などが利用できる演習室があり、各室に約 50 台のパソコンと 100 インチスクリーンを設置し、講義や演習、公開講座に利用しています。また、授業のない時間帯や土曜日・日曜日・祝日にも演習室を開放し、学生の自主学習の環境を提供しています。

【関連団体】

＜宇部高専テックアンドビジネスコラボレイト

（略称：宇部高専 T&B）> 宇部高専の技術を活用して地域活性化を図るために、2001 年に、山口県内の企業と個人を会員とする地域振興協力会として、伊東信行氏（初代会長、株式会社伊東工作所）の尽力により発足しました。「地域が宇部高専を育て、宇部高専が地域へ貢献する」をスローガンとして、第 2 代会長末永俊彦氏（株式会社末永理化学）、第 3 代会長金重和義氏（宇部テクノエンジニアリング株式会社）が会を率いて活動を推進してきました。現在は、会長を小玉明典氏（宇部興機株式会社）が務め、種々産業の企業と宇部商工会議所や山口県産業技術センターなどを含めた 57 の団体・法人会員および 34 名の個人会員が、共同研究や学生のインターンシップへの協力などを行っています。

＜宇部しらとり会（同窓会）＞ 宇部高専の前身である宇部工業短期大学の第一期生により設立された同窓会の「宇部常盤会」を同窓会の一層の活性化と更なる結束を図るために、2017 年に名称を「宇部しらとり会」と改め、会長に吉村泰範氏（機械工学科第 8 期卒業、株式会社吉村）を置き、学校と社会の架け橋として、在校生の就職活動や同窓生の社会の活躍をサポートする存在であるべく活動を行うように一新しました。卒業生の会員には、関東支部、関西支部

を作り、年 1 回支部会開催による情報交換の機会を作り、在校生には教育支援を行っています。

【課外活動】 2020 年 5 月 1 日現在

＜体育系＞19 クラブ

陸上競技部／硬式野球部／水泳部／バスケットボール部／バレーボール部／ハンドボール部／サッカー部／ラグビー部／ソフトテニス部／卓球部／柔道部／剣道部／空手道部／弓道部／ワンダーフォーゲル部／バドミントン部／少林寺拳法部／硬式テニス部／ストリートダンス部

＜文科系＞11 クラブ

写真部／吹奏楽部／文芸部／英会話部／美術部／コンピュータ部／オーディオ部／囲碁・将棋部／華道・茶道部／ロボット研究部／ET ロボコン同好会

【学生数】 2020 年 5 月 1 日現在 ()は女子学生内数
＜進学士課程＞

学年 学科	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	計
M	43 (3)	44 (3)	41 (1)[1]	49 (2)[1]	33 (1)	210 (10)[2]
E	40(3)	44(2)	49(3)	38(1)	38(1)	209(10)
S	40 (10)	43 (4)	45 (3)[2]	44 (4)	36 (7)	208 (28)[2]
C	43 (30)	41 (18)	43 (24) [1]	46 (21) [1]	40 (17) [2]	213 (110) [4]
B	43 (35)	44 (40)	44 (34)	37 (28)	41 (31)	209 (168)
計	209 (81)	216 (67)	222 (65) [4]	214 (56) [2]	188 (57) [2]	1,049 (326) [8]

[]は留学生内数：モンゴル(4名)、マレーシア(4名)
M：機械工学科 E：電気工学科 S：制御情報工学科
C：物質工学科 B：経営情報学科

＜専攻科課程＞

専攻	学年	1 年	2 年	計
生産システム工学専攻		19	19(2)	38(2)
物質工学専攻		4(1)	5	9(1)
経営情報工学専攻		6(5)	4(1)	10(6)
計		29(6)	28(3)	57(9)

【在学生出身地比率】 2020 年 5 月 1 日現在

県内：95% (宇部市 46% 下関市 18% 山口市 15%
山陽小野田市 12% その他 9%)

県外 (海外含む)：5%

(福岡県 37% 広島県 19% その他 44%)

学校法人 香川学園

所在地 宇部市文京台2丁目1-1

電話 0836-38-0500

礼節、自律、共生

学校法人香川学園は、幼稚園、中学校、高等学校、短期大学部、大学、大学院からなる**総合学園**として地域に密着し、多くの有為な人材を輩出してきました。

2019年5月1日現在の教職員数は179人、在籍学生・生徒・園児数は1,624人（大学院29人、大学433人、短期大学部178人、高等学校597人、中学校144人、幼稚園243人）です。

【歴史】

香川学園の初代理事長である**香川昌子**は、明治5年(1872年)1月1日愛媛県喜多郡新谷村に生まれました。楽天的で開放的な父の薫陶を受け、思ったこと考えたことがすぐに言葉になり行動になる積極性を身につけたといわれています。長じて明治19年(1886年)京都西田塾に入り刺繍・裁縫を修め、次いで京都南宗学校で南画を学び女流画家の道を歩みました。明治35年(1902年)厚狭郡立德基高等女学院（現在の山口県立厚狭高等学校）へ赴任し、図画、漢文、習字、礼節科を教えたことが山口県に根を下ろすきっかけとなりました。

昌子は、「地方女子教育の状態につき、いささか感ずるところ」があり、理想の教育を行うためには私の学校を持つより他に方法はないと考え、明治36年(1903年)、厚狭郡藤山村（現在の宇部市藤山）に「**香川裁縫塾**」を開塾しました。これが香川学園の始まりです。その後、香川裁縫女学校（明治37年）、香川実科女学校（大正6年）を経て、香川実科高等女学校（大正14年）、**香川高等女学校**（昭和11年）へと発展しました。

昌子は、「**女にこそ学問が必要**」と考え、特に躰の教育が厳しかったと伝えられています。多くの教え子たちは、その厳しさの背景に優しさがあり、将来成長したときに役に立つことがわかる厳しさであったと述懐しています。このような昌子の実生活に密着した教育と人間愛に満ち溢れた教育の実践が、活力があり骨惜しみせずに社会に貢献する人材を多数育成することができた源であるといえます。また、私学と社会の関係について、「たとえ私立学校であっても、社会の公器である以上は、事、学校に関するかぎり物事の判断にはいささかの私心もあってはならない」といい、自由と独立を尊ぶ私学精神を尊重しつつも、公器としての存在意義を重視しました。

戦後、**香川学園中学校**（昭和22年）、**香川学園高等学校**（昭和23年）、**香川学園藤山幼稚園**（昭和25年）を設置しました。香川学園60周年を契機に、幼稚園から大学までの総合学園を目指す事業計画が立てら

れ、昭和35年(1960年)県下で最初の短期大学として**香川学園短期大学**（同年10月宇部短期大学と改称）を開学しました。

短期大学初代学長である新造節三は、昭和11年香川高等女学校に赴任し、昭和29年香川昌子の逝去に伴い理事長に就任していました。新造学長は、短期大学設立の趣旨として「新時代を担う教養ある人物の育成を目的として、地域の皆さんの為の地域の教育を、それ故にまた地域の文化を高める為に創始した」と述べています。

その後の30年間で、5学科8専攻という日本でも有数の規模を誇る短期大学に発展すると同時に、「情報」、「環境」、「福祉」という新しい分野の学科・専攻を全国に先駆けて開設してきました。しかし、少子化、グローバル化など社会情勢が激変する中、私立短期大学にとって困難な時代が到来し、現在は保育学科と食物栄養学科の2学科の構成になっています。

平成14年(2002年)宇部市及び山口県の財政的支援を受けて**宇部フロンティア大学**を開学し、武下浩が初代学長に就任しました。武下学長は、香川昌子の教育理念を受け継いで、「礼節、自律、共生」をモットーとし、教職員には「学生中心主義」の実践を求めました。教育研究ではフロンティア精神を強調し、学際的、横断的、俯瞰的な視点を重視して、社会福祉、環境経営、人間関係・心理の三分野を統合して人間と社会の在り方を総合的に学ぶ人間社会学部（2002年）心理学部心理学科に改組転換）を開設しました。その後、大学院人間科学研究科（2004年）と人間健康学部看護学科（2007年）を設置し、現在は2学部2学科1研究科で構成しています。

【沿革】

1903年	香川裁縫塾創設（明治36年）
1904年	香川裁縫女学校認可
1916年	香川実科女学校と改称（大正6年）
1926年	山口県香川実科高等女学校認可
1936年	山口県香川高等女学校認可
1939年	財団法人山口県香川高等女学校認可
1947年	香川学園中学校設置
1948年	財団法人香川学園高等学校設置
1950年	香川学園藤山幼稚園設置
1951年	学校法人香川学園認可
1960年	香川学園短期大学設置〔同年、宇部短期大学に改称〕
1990年	学校法人香川学園環境技術センター設立〔2002年、宇部環境技術センターに改称〕
2002年	宇部フロンティア大学人間社会学部人間社会学科設置（平成19年、福祉心理学科に名称変更）
2003年	【創設100周年】（平成15年）
2004年	宇部フロンティア大学大学院人間科学研究科設置 宇部短期大学を宇部フロンティア大学

	短期大学部に名称変更 香川高等学校を宇部フロンティア大学 附属香川高等学校に名称変更 宇部短期大学附属中学校を宇部フロン ティア大学附属中学校に名称変更 宇部短期大学附属藤山幼稚園を宇部フ ロンティア大学附属幼稚園に名称変更
2007年	宇部フロンティア大学人間健康学部看護 学科を設置
2013年	宇部フロンティア大学附属文京クリニ ック設置 (2019年閉院)
2019年	大学と短期大学部のキャンパスを統合
2020年	宇部フロンティア大学心理学部心理学 科を設置

【大学・短大・大学院】

香川昌子の教育理念を受け継ぐ建学の精神として「人間性の尊重と実学の重視」を掲げています。

多様化、複雑化が進行する現代社会にあっては、どんな仕事であっても異なる職種、異なる価値観を持った人たちと協働して問題解決に当たる機会が多くなっています。「人間性の尊重」とは、人間の多様な生き方を尊重しつつ自らの考えを持ち、共通の目的に向かって自律的に行動できる人材を育成することを表しています。そのような能力は、多様な意見や背景を持った人たちと交流する経験を積み重ねることによって育成することができます。それは、人と人とのつながりの中で新たな価値を創造するプロセスでもあります。この経験が「人としての奥行き」を涵養し、人間性豊かな人材を育成します。「実学の重視」とは、単にすぐに役に立つ知識や技術の獲得を重視することではありません。実際の現場で経験を積み重ねることによって、知識と技術を自分のものにするプロセスを重視し、「あなたらしさを仕事力」にする教育を表しています。

【中学・高校】

香川昌子の教育理念と新造節三の「気力の充実した青少年の育成」という教育方針を受け継ぎ、「清く 明るく 強く たくましく」を校訓として、新たな時代を拓く人材の育成に努めています。また、「文武両道」の校風のもと、心身を鍛錬し、ここぞという時にクラスメイトが一致協力する社会性を身につける教育を行っています。

さらに、自ら学び、自ら考え、判断して行動するための高い志とフロンティアスピリットを持ち、未知の世界に一步を踏み出す勇氣ある人材を育成するために、「ICT (情報機器の特性を活かした新しい学びのシステム)」、「Global (世界で活躍できる国際マインドを育てる)」、「Science (実験を取り入れた体験型授業で知的好奇心や探求心を養う)」、「Frontier Learning (課題発見力、実行力など主体的・対話的に深く学ぶ)」、「Active Career (社会的・職業的自立に向けて基本的な能力、生きる力を育てる)」の五本柱からなる「ニュー・

フロンティア・スタイル」を掲げて教育改革に取り組んでいます。

【幼稚園】

幼稚園教育の基本方針を踏まえて、子どもや地域の実態を把握し、園児の一人ひとりの個性の伸長と心身の調和発達を助長することにより、「のびのびと自由に遊ぶ子ども」の育成を目指しています。また、附属幼稚園として、幼児に係る教育的研究を進めるとともに、大学看護学科、短大保育学科、高校保育科の教育課程の一貫として実施される教育実習を行う機関として学生や生徒の指導にあたっています。

【社会人教育】

人生 100 年時代を迎え、世代を超えた学びの場を提供することは、大学が備えるべき機能として今後ますます重要になっています。本学は、全国に先駆けて長期履修制度（現在の教養履修制度）を導入し、社会人の学習機会の拡充を図ってきました。教養履修学生とは、社会人を対象とした、安い学費で学ぶことのできる特別の入学制度です。4年間で課程を修了すると「学士」を修得することができます。

【地域貢献】

教員の専門性を活かして、自治体や各種団体の依頼を受けて研修会を開催したり、講師派遣を行ったりしています。また、宇部市から「消防団協力事業所」として認定を受けて、多くの学生が学生団員として研修を受け、消防団活動に参加しています。その他、地域の企業と協定を結んで商品開発を行うなど地域の活性化に貢献しています。

(文責 長坂祐二)



大学及び短期大学部の校舎



高等学校と中学校の校舎

山口大学大学院医学系研究 山口大学医学部

所在地：宇部市南小串 1-1-1
電話：0836-22-2111

創立 75 年に刻む医学の歴史



【法人データ】

医学系研究科長・医学部長：篠田 晃
創立：1944年（昭和19年）4月



【理念・目的】

○大学院医学系研究科

人類の健康の増進に資するために生命科学分野及びその学際領域の研究を推進し、社会や時代のニーズに対応できる専門的な知識と技量、並びに豊かな人間性と高度の倫理観を持つ人材を育成する。

○医学部

学・医療の専門的知識と技術の教授とともに、豊かな人間性を涵養する教育を行い、人間の健康の増進に資する研究を推進し、社会・時代のニーズに応える高度な知識と技量を「発見し」、「はぐくみ」、「かたちにする」人材を育成する。

【ご挨拶】

山口大学医学部は、山口県の医学と医療の拠点として、臨床マインドと研究マインドを両輪とした学術臨床教育 Academic Clinical Education を行い、国際的視野と地域親和性を有する個性豊かで優秀なアカデミア人材を育成していきたいと考えています。

2020年に入り、新型コロナウイルスが世界的猛威を振るう中、全世界が医学・医療の原点回帰の重要性とウイルスとの共生、病気との共生という新たなメディカルスタイルやライフスタイルの必要性を再認識しているところです。ワクチンや治療

薬の開発、感染症対策、遠隔医療や遠隔教育等のリモートシステム拡充等は大きな課題であり、時代の変化に応じた医学教育・研究・医療システム作り、医学部や病院の人材育成の責務をあらためて感じています。

また、現代ほど医学が生命科学や情報科学などの他分野と関わりを緊密化し、境界が曖昧かつ肥大化した時代はありません。本学においても先端がん治療や再生医療、成人病・生活習慣病、精神・神経疾患、遺伝疾患など難病に対する高度先進医療に取り組んでいます。今また高度に進化したディープラーニングやデータサイエンス等との融合分野が台頭してきており、これに即応するため、他大学に先駆けて AI システム医学・医療研究教育センター (AISMEC) を設置して、新たな時代に向けて邁進しております。

広範に渡る高度な対応が求められる現代医学・医療にあって、医学者、医師、看護師、臨床検査技師等を目指す学生は十分な専門知識と技能の獲得が必要であり、チーム医療・医学を俯瞰し、支え合い、協調できる能力は不可欠になります。医療スタッフがまとまり、患者さんや医学周辺分野を繋ぐためには、互いの心を理解できる高い人間力が必要で、思いやりのあるコミュニケーション力、説明能力、人道的倫理観を身につけることが強く求められます。

時代の変化と色々なニーズに対応して、医学部は常にカリキュラムの改善に努めており、2019年度に医学教育分野別評価(国際認証評価)を受審し認定されました。地域でも世界でも社会貢献できる個性豊かな人材を育成・輩出し、現場での医療活動から高度な先進医学・医療まで多岐に亘る医学教育・研究・臨床医学界や社会や産業界へ還元できる役割を果たしたいと考えています。

医学系研究科長・医学部長 篠田 晃

【医学部のあゆみ】

1944年 4月	山口県立医学専門学校設置
1949年 4月	山口県立医科大学学部設置
1952年 4月	山口県立医科大学設置
1958年 4月	山口県立医科大学大学院医学研究科設置
1964年 4月	山口大学医学部創設(国立移管)
1979年 10月	山口大学医療技術短期大学部設置
2000年 10月	山口大学医学部保健学科設置
2004年 4月	国立大学法人へ移行
2005年 4月	医学研究科を医学系研究科に改称
2016年 4月	医学系研究科の5専攻を2専攻に再編
2018年 4月	AISMEC 設置
2019年 3月	医学部総合研究棟A(医修館)竣工
2020年 7月	医学教育分野別評価の結果、評価基準に適合していることが認定

山口大学 医学部附属病院

所在地：宇部市南小串 1-1-1
電 話：0836-22-2111

宇部から発信する総合医療の歴史

【法人データ】

附属病院長：杉野 法広

創 立：1946年（昭和21年）9月



【理念・目的】

1. 安心・安全で良質な医療を提供する。
2. 将来を担う医療人を育成する。
3. 地域医療を支え、発展させる。
4. 世界に発信する先進的医療を推進する。

【ご挨拶】

山口大学医学部附属病院は、現在、ベッド数 756 床、30 診療科と 24 の診療部を擁し、あらゆる分野の疾患を総合的に診療できる県内唯一の特定機能病院です。

本院には国立大学病院で最初に設立された「高度救命救急センター」があり、宇部市とのドクターカー運用や山口県ドクターヘリ、新生児ドクターカーの基地病院として、全県の救急医療体制を担っています。また、「山口県がん診療連携拠点病院」および「山口県肝疾患診療連携拠点病院」、「総合周産期母子医療センター」等にも指定されており、安全で安心な質の高い医療を提供できるよう、すべての職種、職員が連携し、最先端の機器や技術の修得に日々努めています。

国立大学の使命である教育・研究についても、医療人育成センターでの医療人のキャリア形成支援、臨床研究センターでの倫理審査をはじめとした研究のトータルサポート、基礎研究を臨床応用するトランスレーショナルリサーチの推進を行っています。

現在、『Your Health, Our Wish』（あなたのために）をスローガンに①教育・研修、②研究開発・先進医療、③地域医療推進、④病院基盤強化を基本

戦略として、新病棟の建設、既存施設の改修、最新医療機器の導入など、国立大学病院として 2 回目となる病院再開発整備事業を進めています。令和元年 6 月 24 日には、本事業の中心となる新病棟が開院しました。急性期医療の充実や先進医療への取り組みを一層推進させます。「頼りになる病院」を目指して、2025 年度完了に向け再開発整備事業に取り組んでまいります。

また、2016 年 10 月に園舎を新営した院内保育所「たんぼぼ保育園」では収容定員を 90 人に増やすなど、働きやすい職場環境、男女共同参画に向けた整備を行っています。

地域の皆さまからのご期待に応えるべく、患者中心の透明性の高い医療を提供し、変化する社会の要望に貢献できる医療人の育成、新しい診断法および治療法の研究開発に邁進してまいります。

今後とも、皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。

医学部附属病院長 杉野 法広

【病院概要】

○標榜診療科：30 診療科

内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、精神科、心療内科、小児科、アレルギー科、外科、心臓血管外科、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、リウマチ科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、産婦人科、麻酔科、脳神経外科、歯科口腔外科、脳神経内科、臨床検査科、病理診断科、救急科、リハビリテーション科

○病床数：756 床

○各種指定

消防法の規定に基づく救急病院・臨床修練指定病院・特定機能病院・災害拠点病院・日本医療機能評価機構認定病院・難病診療連携拠点病院・高度救命救急センター・都道府県がん診療連携拠点病院・エイズ治療中核拠点病院・肝疾患診療連携拠点病院・山口県 DMAT 指定病院・総合周産期母子医療センター指定病院・二次被ばく医療機関・都道府県アレルギー疾患医療拠点病院

【附属病院のあゆみ】

1946年 9月	山口県立医学専門学校附属病院発足
1967年 6月	山口大学医学部附属病院創設 (国立移管)
1994年 1月	特定機能病院の承認
2004年 4月	国立大学法人へ移行
2016年 10月	附属病院保育所新営
2019年 6月	A 棟（新病棟）開院 病床数 756 床に変更

山口大学工学部

所在地：宇部市常盤台 2-16-1
電話：0836-85-9005

ひとづくり、ことづくり、ものづくり

【法人データ】

学部長：堤 宏守
創立：1939年（昭和14年）5月22日
設立：1949年（昭和24年）

【理念】

自分で考え、自分の力で明日を切り開く、
次世代のエンジニアを育成します。



【メッセージ】

山口大学工学部は、1939年5月に宇部高等工業学校として設置されて以来、今日では機械工学、社会建設工学、応用化学、電気電子工学、知能情報工学、感性デザイン工学、循環環境工学の7学科と各学科に共通する部分の教育を担当する工学基礎講座で構成され、中国地方最大規模の工学部へと発展してきました。また、理学・工学・農学を融合させた大学院創成科学研究科（博士前期・博士後期）を有し、博士前期課程では先取り履修制度等の学士課程との6年一環教育による専門分野の深化を目指しています。

21世紀の私たちの生活をより豊かにより安心に支える世界の実現にむけた技術者の育成を行っており、元号が令和に改まった2019年に前身である旧制宇部高等工業学校から数え、創立80年を迎えました。これまで多くの卒業生を輩出し、国内はもとより海外でも幅広く活躍しています。

このような歴史を持つ工学部には、教員と学生が協働して産み出した多くの『宝』が詰まっています。工学部の『宝』を産み出す力を支えてくださる地域の皆様とともにこれからも山口大学工学部は歩んでまいります。

山口大学工学部長 堤 宏守

【工学部のあゆみ】

1939(昭和14)年 5月 22日	旧制宇部高等工業学校創設
1949(昭和24)年 4月	山口大学工学部設立
1967(昭和42)年 4月	大学院工学研究科を設置
1989(平成元年)	【創立50周年】
1997(平成9)年 4月	大学院理工学研究科に改組
2016(平成28)年 4月	大学院創成科学研究科に改組
2019(令和元)年	【創立80周年】

【学部・大学院】

[工学部] *7学科で構成
機械工学科、社会建設工学科、応用化学科、電気電子工学科、知能情報工学科、感性デザイン工学科、循環環境工学科
[大学院創成科学研究科（工学系）] *4専攻で構成
機械工学系専攻（3コース）、建設環境系専攻（4コース）、化学系専攻（3コース）、電気電子情報系専攻（4コース）

【特色ある教育】

本学の理念である「発見し、はぐくみ、かたちにする知の広場」のもとに、企業との共同研究に注力しており、その研究成果に立脚した実践的教育に特色があります。さらに、医工連携や知的財産教育、ものづくり教育などを推進し、21世紀の重要分野と言われるライフサイエンスから環境まで幅広く、グローバル化に対応する技術者の育成を目指しています。

○工学基礎教育

目覚ましい進展を遂げる工学分野において、応用を学ぶ上では基礎が重要です。工学の基礎となる数学・物理学・英語を全学科・全専攻の学生に対して実施しています。また、工学系技術者の基礎となる数学の全国統一試験を主催しています。

○グローバル教育

世界で活躍できる技術者となるため、工学系の必要な専門知識だけではなく本学独自の語学教育プログラムや教材を使用して英語コミュニケーション能力を兼ね備えた人材育成を推進しています。

○「志」イノベーション道場

学生のアイデア、企業からの要望、研究者からのアシスト、それらが融合した場としてのスタジオが開かれ、イノベーションへと発展する活動が行われています。アイデアを即座に形にする機器群、地域企業の技術者も交えた中での様々なプレゼン、Face to Faceの議論、実社会とリンクした学生参加型活動を展開しています。

山口大学工学部ホームページ

<http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学 応用衛星リモートセンシング研究センター

所在地：宇部市常盤台 2-16-1
電話：0836-85-9536

宇宙データ利用のパラダイムシフトを牽引する

【法人データ】

センター長：長井 正彦

設立：2017年（平成29年）2月



【メッセージ】

山口大学応用衛星リモートセンシング研究センター（YUCARS：ユカルス）は、2016年9月に国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）、山口県、および本学による「衛星データ利用・研究の推進に係る連携協力に関する基本協定」を締結し、2017年2月にJAXAの西日本衛星防災利用研究センターが山口県宇部市に開所されたことを契機に、2017年2月に産声をあげました。

YUCARSは、工学部を中心に、農学部、理学部、経済学部、人文学部、教育学部、国際総合科学部等の30人を超えるメンバーで、衛星データを活用した研究チームを組織し、JAXAをはじめ国内外の宇宙機関や大学、民間企業と、衛星データ解析に関する研究開発と防災、環境、情報科学、農業、経済等の様々な分野における衛星データの利用に関する研究を行っています。特に、防災の分野では、衛星データを速やかに解析し、その成果を、災害現場を抱える地方自治体に迅速に提供する仕組みの構築に積極的に取り組んでおります。

YUCARSは、世界的なパラダイムシフトが起こりつつある宇宙技術分野の開発と利用において、宇宙インフラの利用技術を進展させるとともに、この分野の科学者・技術者（データサイエンティストやデータエンジニア）を養成し、社会に貢献したいと考えています。宇宙技術を私達の生活の中で身近に利用

できるようになれば、災害時に命を守ることや安定した食料の収穫支援、環境問題の把握等、地球を守る活動に貢献できます。YUCARSは、宇宙利用の大きな可能性を確信しています。山口大学から、衛星リモートセンシング技術の最新の研究成果を世界に発信し、宇宙利用ができる人材を世界に送り出していきます。

応用衛星リモートセンシング研究センター
センター長 長井 正彦

【応用衛星リモートセンシング研究センターのあゆみ】

2016年 9月	JAXA や山口県と「衛星データ利用・研究の推進に係る連携協力に関する基本協定」を締結
2017年 2月	山口大学応用衛星リモートセンシング研究センターを設立
2020年 3月	人防災科学技術研究所と包括的な連携を行うことで合意し、包括連携・協力に関する協定書を締結
2020年 12月	アクセルスペース社と「衛星データの利用・研究の推進」に関する基本協定書を締結

【応用衛星リモートセンシング研究センターの4つのミッション】

- 宇宙データ利用とデータサイエンスを融合した世界水準の研究を推進
膨大な衛星データをAI（人工知能）により自動処理したり、データサイエンスにより未来を予測したりする技術を開発しています。
- この分野の高度な技術と応用分野に適用できる幅広い知識をもつ人材の育成
衛星データ解析技術だけでなく、防災、環境、海洋、農業、経済等の様々な応用分野と連携した人材育成を行っています。
- 災害時に衛星データを解析し、安全で安心できる社会の実現に貢献
衛星リモートセンシングを使って災害発生直後に、どこにどのような被害が発生しているのかをすぐに解析し、行政機関や防災関連機関に被害情報を提供するための研究に取り組んでいます。
- これらの研究・人材育成を通じてイノベーションを創出
産学官連携で、衛星リモートセンシングや宇宙技術利用に関する研究成果を社会実装しています。

山口大学
応用衛星リモートセンシング研究センター
<http://yucars.eng.yamaguchi-u.ac.jp/>

一般社団法人 宇部観光コンベンション協会

所在地：宇部市常盤町一丁目 6 番 44
電 話：0836-34-2050

観光による地域づくりを進める

【団体データ】

会 長：徳原 幹男
会員数：435
発 足：1996 年 6 月



【法人のあゆみ】

1996 年 6 月	発足
2000 年 10 月	社団法人
2012 年 4 月	一般社団法人
2019 年 3 月	観光地域づくり法人 (DMO) に登録

【ご挨拶】

『観光・コンベンションは地域発展の推進力』という基本理念に基づき、持続可能な観光地域づくりに向けて、積極的に事業実施をしていきます。



【目的】

宇部市及びその周辺地域の文化・歴史、産業・技術などの資源を活用し、コンベンションの誘致及び支援並びに観光事業の振興を図り、もって地域経済の発展と市民生活の向上に寄与すること

【業務内容】

- ・観光地域づくり法人としてのマネジメント及びマーケティング機能の充実強化
- ・MICE の創出・誘致と受入体制の構築
- ・観光資源を活かした戦略的な観光プロモーションの展開

- ・魅力的なツアーの造成・販売
- ・フィルムコミッション推進

【コンベンション情報】

ようこそ 緑と花と彫刻のまち 宇部へ

宇部市は山口県の南西部に位置する、緑あふれる環境先進都市です。

戦後、石炭産業と化学産業で発展に伴い引き起こされた公害問題を産・官・学・民一体となった「宇部方式」により克服しました。その過程で「緑化運動」「花いっぱい運動」「まちを彫刻で飾る運動」などの市民活動が起こり、現在の花壇コンクールや UBE ビエンナーレにつながっています。「緑と花と彫刻のまち」が市のキャッチフレーズとなっている由縁です。この本市のまちづくりのドラマの象徴が、本市最大の観光施設であるときわ公園で、「世界かんがい施設遺産に登録された常盤湖の周りに四季折々の花々が楽しめるほか、特色のある動物園や植物館、遊園地を有する総合公園として、多くの観光客をお迎えしています。

2年に一度、世界で最も歴史のある野外彫刻国際コンクール「UBE ビエンナーレ」も、ときわ公園で開催されています。その大賞作品など約 200 点が、園内ばかりでなく、市内各所に設置され、まちじゅうがアートに彩られ、散策することができます。

その他にも山口県最古の庭園で、国の名勝庭園に指定されている龍心庭のある宗隣寺、北部地域に広がる西日本一の茶園など、見所がたくさんあります。

本市へは、山陽自動車道の宇部 IC や重要湾である宇部港、更には東京と 90 分で結ぶ山口宇部空港があるなど、陸海空それぞれの交通環境が整っています。

宇部観光コンベンション協会では、市内の隠れた見所を訪れるツアーのほか、山陽小野田市、美祢市とともに実施している産業観光も実施していますので、ぜひお問い合わせください。

【宇部の観光地】

- ときわ公園
- 藤河内茶園
- キワ・ラ・ビーチ
- 赤間硯の里
- 宗隣寺
- 琴崎八幡宮
- ほか

ときわ公園



常盤湖



ときわ動物園



ときわミュージアム世界を旅する植物館



UBE ビエンナーレ彫刻の丘



花いっぱい運動記念ガーデン



ときわ遊園地

2016年「世界かんがい施設遺産」に登録された常盤湖を中心に、緑と花と彫刻に彩られた総合公園。広さ 189ha という広大な敷地を誇る園内には、子供に大人気の動物園や遊園地のほか、2017年4月には、「ときわミュージアム 世界を旅する植物館」もオープンし、子供から大人まで楽しめる施設が併設している。また、園内各所で年間を通じて様々なイベントを実施しているのも魅力の一つです。

藤河内茶園



キワ・ラ・ビーチ



宗隣寺龍心庭



渡辺翁記念会館



山口宇部空港



琴崎八幡宮



吉部の大岩郷



荒滝山



赤間硯



公益財団法人 宇部市体育協会

所在地：宇部市恩田町四丁目1番4号
電話：0836-31-1507

スポーツによる地域活性化

【団体データ】

理事長：千葉 泰久
加盟団体：31
設立：1924年4月



【法人のあゆみ】

1924年	スポーツ振興団体として設立
1994年4月	財団法人
2006年4月	宇部市体育施設の指定管理者の指定
2007年4月	宇部市勤労者総合福祉センターの 指定管理者の指定
2012年4月	公益財団法人

【ご挨拶】

スポーツを「する」「みる」「ささえる」の活動を通じてスポーツイベントに関わることが、まちづくりの大切な要素であると考えますので、これからもスポーツの力を活用して地域づくりに貢献してまいります。



【目的】

スポーツ・レクリエーションの振興・健康の保持増進に関する事業を推進することにより心身ともに健康な市民生活の形成と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

【業務内容】

- ・各種スポーツ大会・講習会等の開催
- ・健康増進・体力づくりに関する事業
- ・体育・スポーツに関する調査・研究
- ・加盟団体及びスポーツ関係団体との連携調整
- ・少年スポーツ及びスポーツ少年団の育成事業
- ・市内体育施設及び都市公園の指定管理業務
- ・市内勤労者総合福祉センターの指定管理業務

【自主事業】

- ・グラウンド・ゴルフ親子大会
- ・運動会必勝塾
- ・ノルディックウォーキング講習会
- ・体幹教室
- ・卓球教室
- ・野球場トレーニングジム ほか

【委託事業】

- ・宇治市・宇部市スポーツ交流大会
- ・指導者派遣事業
- ・スポーツ少年団本部の業務
- ・全国大会出場助成金事業

【スポーツによるまちづくり】

宇部市スポーツ推進計画の「スポーツを楽しむ元気なひとの元気なまち・宇部市」を実現するために、単なる健康志向やブームではなく、健康長寿命社会を創り支えるというミッションが課せられています。

一方では人口減少の中でも、各加盟団体のみなさんご協力のもとスポーツ・レクリエーション大会やスポーツ教室の開催など、子供たちが将来に向けて夢が持てるように各種スポーツ振興・競技力向上を継続かつ着実に進めていかななくてはなりません。

そこで、地域に合った魅力あるスポーツイベントやプログラムの提供、広報活動を実施し、コミュニティーという生活の場を介して連帯感を生み出す事業を展開し、生涯スポーツを行うことのできる環境を提供してまいります。

また、各種大規模大会の誘致を加盟団体と協力し、中央公園テニスコート・宇部市野球場及び俵田翁記念体育館等の体育施設を有効に活用することで、地域の活性化を視野に入れた「地域ブランドの強化」が求められています。そこで、これからも数多くの関係団体と信頼関係を築いて「スポーツ」×「文化」×「観光」をキーワードに地域スポーツの振興に寄与し、交流人口を増やす取り組みを積極的に行い、ゆたかなまちづくりに取り組んでいきます。

一般財団法人 宇部市文化創造財団

所在地：宇部市朝日町8番1号宇部市文化会館内
電話：0836-35-3355

人と地域がきらめく文化の薫るまち実現のために

【団体データ】

理事長：福本陽平

職員数：22

設立：2013年10月



【法人のあゆみ】

2013年10月	設立
2014年4月	宇部市渡辺翁記念会館・文化会館 指定管理開始〔5年間〕
2019年4月	宇部市渡辺翁記念会館・文化会館 2期目指定管理開始〔5年間〕

【ご挨拶】

宇部市の目指す「人と地域がきらめく文化の薫るまち」「いつでも どこでも だれでも文化の薫りを実感できる」まちの実現のため、民間の知恵と情熱と行動力を活かした官民協働の文化振興推進組織として事業実施をしていきます。



*財団は宇部市渡辺翁記念会館の指定管理を行っています。

【目的】

宇部市における文化の振興を図るため、宇部市独自の文化を受け継ぎ、さらに発展させ、市民の自主的かつ創造的な文化活動を支援促進し、もって「人と地域がきらめく、文化の薫るまち」実現に寄与していきます。

【業務内容】

(1)文化事業の開催その他市民が文化に触れる機会の充実に関する事業 (2)市民による自主的な

文化活動の支援並びに文化活動を担う人材育成及び確保に関する事業 (3)文化の振興を図るための意識の啓発及び情報発信に関する事業 (4)文化の振興に資する調査研究及び資料の調達収集に関する事業 (5)文化的な施設の管理運営に関する事業 (6)その他この法人の目的を達成するために必要な事業

【宇部市文化創造財団の取り組み】

戦後の物質的・経済的な豊かさを追求してきた一方で、「物の豊かさ」から「心の豊かさ」に重きをおきたいという人の割合が多くなってきている現代社会において、公立の文化施設に求められる「地域に開かれ、人々が集い、豊かに交流できる『新しい広場』としての機能」を充実させていきたいと考えます。

2017年6月に制定された文化芸術基本法では「文化芸術を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であり、心豊かな社会を形成するもの」とされています。そして、文化・芸術には「人間が人間らしく生きるための糧、生きる力、生きる喜びである『本来の価値』」、「人と人を結びつけ、相互理解や相手を尊重し合う『社会的価値』」、そして「文化芸術を活用して地域経済の活性化を図るとされる『経済的価値』」の3つの価値があるとされており、コロナ禍で疲弊した心を癒すなど、文化・芸術の果たす役割は非常に重要と考えています。

文化・芸術によって人と人、人と文化、人と社会をつなげ、市民一人ひとり、子どもから高齢者まで、あらゆる人々がいつでもどこでも創造活動や鑑賞のできる機会を創造していく取り組みを深めていきます。

<宇部市渡辺翁記念会館>



客席から見たステージ



2階ロビー

宇部商工会議所

所在地：宇部市松山町一丁目 16 番 18 号

電 話：0836-31-0251

未来へつなぐ変わらぬ宇部の心～共存同栄～



【会議所データ】

会 頭：杉下 秀幸

従業員：20 人

設 立：1934 年（昭和 9 年）1 月 17 日



【理念】

共存同栄、協同一致

もっと元気な宇部に、もっと元気な企業に！

宇部商工会議所は、市内会員企業によって組織され、宇部地域の経済振興と魅力ある宇部の創造に向かって各種事業を展開しています。

商工会議所は、「商工会議所法」に基づいて組織運営が定められ、その地区における商工業の総合的な改善を図り、兼ねて社会一般の福祉の増進に資することを活動目的とした特別許可法人です。国内はもとより海外においても、商工会議所とその会員に対する信頼度が高いことは、法に裏付けされた公的な性格によるものです。

現在（2020 年 4 月時点）、商工会議所は全国で 515 商工会議所がそれぞれの地域で活動しています。

商工会議所は（1）地域性—地域を基盤としている、（2）総合性—会員はあらゆる業種・業態の商工業者から構成される、（3）公共性—公益法人として組織や活動などの面で強い公共性を持っている、（4）国際性—世界各国に商工会議所が組織されている、という 4 つの大きな特徴を持っており、全国の商工会

議所の会員数は 124 万（2020 年 3 月）を数えています。日本商工会議所を中心に国などに中小企業の税制改正など様々な陳情要望活動を行っています。

宇部商工会議所は、「新川市まつり」を主催、「宇部まつり」並びに「花火大会」を市等と共催し、地域のにぎわい創出に努めているとともに、市や（株）にぎわい宇部と協働で中心市街地の活性化に取り組んでいます。

宇部商工会議所の会員になると信用力が高まります。また、商工会議所の会員サービスを積極的にご活用いただくことで事業拡大を図ることも可能です。

商工会議所の会員メリットは、同業種・異業種の人脈づくりや情報収集、経営・記帳・税務・労務・法律・取引などの個別相談に対し、丁寧な指導を受けることができます。各種講演会・研修会を無料又は会員割引で受講できます。「記帳」や「労働保険（労災保険、雇用保険）」の事務を一部条件はありますが格安で委託できます。各種保険（生命共済、退職金、損保など）が団体扱いとなり割安に加入できます。宇部商工会議所の健康診断にかかる健診料の一部補助を受けることができます。従業員の「優良」「永年勤続」表彰が利用できます。

開業（独立）をお考えの方には、事業計画の立て方や資金繰り、確定申告までしっかりサポートしています。

【宇部商工会議所のあゆみ】

1909 年	宇部実業会が誕生。会員数約 100 名
1923 年	宇部商工会に改組
1934 年 1 月	宇部商工会議所を設立。初代会頭に渡邊祐策が就任
1943 年 8 月	戦争による解散
1946 年 7 月	戦後の再建
1947 年 3 月	社団法人 宇部商工会議所
1954 年 3 月	特別許可法人 宇部商工会議所
1984 年 1 月	【設立 50 周年】
5 月	宇部商工会議所婦人部（現：女性会）を創立
10 月	宇部商工会議所青年部を創立
2024 年 1 月	【設立 90 周年】

【沿革】

石炭産業によって急速に発展した宇部村は、大正 10 年（1921 年）11 月に一躍市制を布きました。その中で、宇部商工会議所の前身である宇部実業会が明

楠むらづくり 株式会社

所在地：宇部市大字東万倉字二ノ沖田 917 番地
電話：0836-67-2617

宇部北部地域振興の中心を担う



【企業データ】

代表取締役：武波 博行

資本金：2000 万円

設立：2007 年（平成 19 年 12 月 25 日）

【楠こもれびの郷：目的と概要】

宇部市北部地域の農林業振興と地域の活性化、都市と農村の交流や農業研修などを推進する目的で整備された。本施設の全ての建物は、地元宇部市と山口県産の木材を使用していることが特徴です。

楠こもれびの郷は、くすのき温泉「くすくすの湯」、農産物直売所「楠四季菜市」、農家レストラン「つつじ」、農業研修交流施設「万農塾（ばんのうじゅく）」の 4 施設からなり、駐車場も完備しています。

【法人のあゆみ】

2004 年	楠町が温泉掘削を開始したことに併せ、ワークショップ「楠の農業と温泉を考える会」を地域住民と関係機関との連携で立ち上げた。この年、楠町は宇部市へ編入合併した。
2005 年 3 月	温泉 34.6℃、湧出量毎分 500ℓのアルカリ単純泉が湧出する。
2007 年 12 月	地域の活性化と地域農林業の振興を目的として、公共施設の管理運営の受託、農業振興のための担い手育成支援事業及び付随する事業を展開するため、「楠の農業と温泉を考える会」を母体として地域住民有志により「楠むらづくり株式会社」を設立。資本金 1300 万円。翌年、増資により資本金 2000 万円とした。
2008 年 12 月	宇部市より「楠こもれびの郷」の指定管理者に認定される。
2009 年 8 月	「楠こもれびの郷」開所
2010 年 4 月	農業研修交流施設「万農塾」開所
2011 年 12 月	宇部市楠農産物加工所の管理運営を受託。
2012 年 8 月	隣地の古民家を施設と一体的に活用するため、カフェ・ランチ「倉」と焼き立てパンの店「クルール」を

開業。

2017 年 12 月 【設立 10 周年】

【源泉かけ流し くすくすの湯】

木造平屋建て（一部 RC 構造）1050 m²



34.6℃で湧出する源泉を加温し、掛け流しの天然温泉。ヒノキ風呂と石造り風呂とがあり、またそれぞれの露天風呂には、山口県立宇部西高等学校・環境緑化系列により作庭された宿場町を表現した和風庭園と有帆川を表現した和風庭園があり、ゆっくりくつろげる空間となっています。効能は神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動まひ、関節のこわばり、打ち身、くじき、慢性消化器病、痔疾患、冷え性、病後回復、疲労回復、健康増進。

温泉の開業以来、2020 年にくすくすの湯のご入浴者数が 120 万人突破しました。

【農産物直売所 楠四季菜市】

三施設一体の構造 木造平屋建て 610 m²

楠四季菜市（農産物直売所）には、地域農家より届けられた新鮮野菜が並べられ、その他ジャム、漬物など加工品も販売しています。さらには万農塾の卒業生を始め、地元で就農した若手農業者も直売所を活用しています。



【農家レストラン つつじ】

つつじ（農家レストラン）では、くつろぎの食卓を

イメージしたテーブルを置き、地域の野菜を食材としておふくろの味を提供しています。大広間（交流室）は、お風呂上がりの休憩所として、またレストランつつじの食事もできるくつろぎの空間としてご利用いただいています。



【田舎のパン屋さん クルール】

パン生地から手作りのパンのみを販売。米粉を使ったパンも提供しています。宇部の季節の素材にこだわったパンを開発し提供しています。動物パンなども大人気です。



【古民家 倉】

カフェとギャラリーが一体となった古民家ギャラリー。宇部市をこよなく愛し、農家さんが手間暇かけて育てたこだわりの新鮮野菜の四季彩・旨み・食感を生かすお料理をフレンチシェフが提供します。

ギャラリーでは、地元作家による伝統工芸、陶器、木作品、革製品、アクセサリーなどの作品を展示しています。



【農業研修交流施設「万農塾」】

木造平屋建て 300 ㎡。地域農業の活性化と新規就農のための研修及び就農支援を実施。また都市部との交流として、モデル農園での家庭菜園などの栽培方法などの助言。調理室が併設された研修室での各種教室の開催で交流事業を推進しています。遠隔地からの農業研修のために宿泊施設も用意されています。



山口県漁業協同組合 宇部統括支店

所在地：宇部市八王子町 12-24
電話：0836-31-0233



【法人データ】

山口県漁業協同組合宇部統括支店
統括運営委員長 河野 直行

出資金：192,905,000円（令和元年度末）
設立：2005年（平成17年）8月
組合員数：221人（令和元年度末）
職員数：12名（令和元年度末）

【水産業・漁村の担う役割】

国民への安全・安心な水産物の供給をはじめ、地域の基幹産業として雇用機会の維持・創出、海岸清掃や藻食動物の駆除等による水産資源や沿岸域の環境保全、海難救助、国境監視、交流の場の提供、伝統文化の形成・維持などがある。

【ご挨拶】

水産県である山口県の中で唯一、潜水器漁業やノリ養殖業があるのも宇部統括支店の大きな特長のひとつで、漁業者の高齢化・減少、魚価安といった共通課題が、日本漁業に覆いかぶさっている。そんな状況下で宇部市内にこれまで無かった水産物直売施設を整備することで、未利用・低利用魚の加工品開発など6次産業化の推進へ取り組み、消費者への安心・安全な地元水産物の提供を通じて、漁村と地域の交流拠点とし、水産業の活性化を図ることを目的にうべ新鮮市場「元気一番」を建設しました。

統括運営委員長 河野 直行

【統括支店一覧】

山口県漁業協同組合 宇部岬支店
運営委員長 河野 直行
宇部市八王子町 12 番 24 号
TEL 0836-31-0233
FAX 0836-31-0232
山口県漁業協同組合 東岐波支店
運営委員長 高井 修
宇部市大字東岐波 4193 番地 9
TEL 0836-58-2142

FAX 0836-58-2466

山口県漁業協同組合 床波支店
運営委員長 河口 悟
宇部市床波一丁目 15-33

TEL 0836-51-9041

FAX 0836-51-3840

山口県漁業協同組合 藤曲浦支店
運営委員長 渡壁 嘉代七
宇部市居能町一丁目 9-4

TEL 0836-21-1242

FAX 0836-21-1714

うべ新鮮市場「元気一番」
宇部市八王子町 12 番 25 号

TEL 0836-31-7070

FAX 0836-31-7070

【沿革】

2005年08月01日

山口県漁業協同組合の合併に東岐波漁協及び藤曲浦漁協参加

2005年11月01日

山口県漁業協同組合の合併に床波漁協参加

2006年08月01日

山口県漁業協同組合の最終合併に宇部岬漁協参加

2016年04月16日

統括支店直営の水産物直販加工施設

うべ新鮮市場「元気一番」新規オープン

事業案内

【信用事業】

信用事業は、貯金、融資、為替など、いわゆる銀行業務といわれる内容の業務を行っています。

貯金業務

組合員はもちろん地域住民の皆様や事業主の皆様からの貯金をお預かりしています。

貸付業務

組合員への融資をはじめ地域住民の皆様のご暮らしや、漁業者・事業者の皆様のご事業に必要な資金をご融資しています。

為替業務・公共料金払込・年金のお受け取り

全国どちらの金融機関への振込みやお受取が可能です。また、県税、市税をはじめNHK受信料、電話料、電気料、水道料等の公共料金のお支払いができます。

【共済事業】

万が一の病気、怪我、火災等予期しない出来事への備えとして、チョコー、くらし等の保険を取りそろえております。

【経済事業】

購買事業

購買事業は、組合員及び漁業関係者が必要とする漁業資材及び生活物資等の共同購入等を通じて購買品を安定的かつ適正価格による安定供給の実現を図ることを目的とする事業です。

石油製品類

油槽タンクを設置し組合員及び漁業関係者に良質な石油製品類を安定供給することを目的としています。

漁業資材

漁業に必要な漁網類等の資材の供給を目的としています。

生活物資

組合員、利用者の皆様への必要な生活物資の供給を目的としています。

販売事業

瀬戸内海に面した宇部市は好漁場に恵まれ、新鮮で安心安全な水産物を消費者に提供することを目的としています。

製氷事業

組合員が新鮮な水産物を保持するための氷を販売することを目的としています。

利用事業

漁船上架施設や漁具倉庫の管理運用をすることを目的としています。

指導事業

「水産物の安定供給の確保と水産業の健全な発展」の実現に向けた事業展開を目指しています。



宇部統括支店
(宇部岬支店)



東岐波支店



床波支店



藤曲浦支店

宗教法人 琴崎八幡宮

所在地：宇部市大字上宇部大小路 571
電 話：0836-21-0008

1160年の歴史を誇る
宇部の氏神様



宮 司：白石 正典
創 祀：859年（貞観元年）



【御挨拶】

琴崎八幡宮は山口県内神社の大社として知られ、全国約 80,000 社の神社を包括する別表神社（全国で約 350 社）の内の一社に数えられています。別表神社とは旧社格（琴崎八幡宮は旧県社）にかわるものとして神社の歴史由来、運営規模などを考慮して神社本庁が定めた制度です。

宇部市〈旧宇部村地区〉を守護する産土（うぶすな）神社として、初宮詣、厄除け、七五三、交通安全、安産などの各種御祈願、初詣、節分祭、春祭、秋祭、毎月 1 日に催される朝市など八幡宮を慕い敬う参拝者で境内は賑わいをみせております。

また歴史研究の結果、後の靖国神社初代宮司 青山清（上総）が維新決起の為、禁門の変での責を負い自刃した宇部領主 福原越後の神霊を琴崎八幡宮に慶應元年（1865）5 月 16 日を創祀の日としていることから（維新招魂社縁起）この日こそが「招魂社」の始まりであるということが出来ます。この後、長州藩は同年 6 月に朝日山招魂社、同年 8 月に桜山招魂社を創祀し、琴崎八幡宮に仮合祀されていた福原越後の御霊は新しく完成した維新招魂社へ慶應 3 年に遷座されました。この様な長州藩内で行っていた招魂祭を明治維新の後、長州藩出身の兵学者 大村

益次郎が社地を選定し東京招魂社が建立され、これが後に靖国神社と改称されました。このことから当八幡宮が靖国神社の源流となった神社ということが出来、維新の歴史に深く関係する神社であったことがお分かりいただけるのではないかと思います。

交通の面では山口宇部空港、J R 新幹線・新山口駅、山陽自動車道宇部インターなどからの交通の利便性もよく、お車でお越しに際しては広い駐車場も用意されており、大変立地に恵まれた環境であるということが出来ます。宇部、山口、萩などの観光コースとしても、またここ近年は九州、中四国をはじめ全国各地からのご参拝をいただいております。また境内全域にイロハモミジを植栽し、『もみじ苑』として整備を致しました。

【歴史年表】

859 年 (貞観元年)	当宮の創祀。僧の行教が宇佐神宮の御分霊を京都石清水八幡宮に御歎請の際、宇部郷琴芝の浦に寄航し、御分霊を幣に分け、この地に留めた。
1184 年 (寿永 3 年)	厚東氏七代武光が長門国守護職に任ぜられると、新社殿の造営を命じ、社地を西の宮（今の宮地町）に遷座した。
1377 年 (永和 3 年)	長門国守護職大内弘世は、現在地の琴崎へ遷座して、現在に至る。
1492 年 (延徳 3 年)	紙本着色琴崎八幡宮縁起絵巻（上下二巻）作成
1865 年 (慶應元年)	禁門の変の責を負い自刃した福原越後の神霊を仮合祀。靖国神社の源流とされる。
1935 年 (昭和 10 年)	現在の社殿（本殿・幣殿・拝殿）竣功 旧拝殿は相生殿として移築
2010 年 (平成 22 年)	御祭神、第十五代應神天皇御崩御壱千七百年式年大祭が斎行される
2013 年 (平成 25 年)	壱千七百年式年大祭竣功奉告祭が斎行される
2017 年 (平成 29 年)	新授与所竣功
2018 年 (平成 30 年)	琴崎稲荷神社御鎮座百五十年式年大祭が斎行される
2019 年 (令和元年)	安倍晋三内閣総理大臣正式参拝



紙本着色琴崎八幡宮縁起絵巻の一部（室町時代の作、宇部市指定有形文化財）

【由緒】

貞観元年（859年）僧の行教が御舟で大分県宇佐八幡宮（現：宇佐神宮）より御分霊を京都石清水八幡宮に御勧請の際、海上の時化のため、宇部郷琴芝の浦に寄航し、御分霊をこの地に留めました。里人は御神徳を景仰して琴芝村八王子に祠を建立し、霜降城主厚東氏からも城南の鎮守として代々尊崇されました。しかし、社地が海岸であった為、祠は長い年月を経て波や風雨にさらされ、やがて廃壊してしまいました。

寿永三年（1184年）厚東氏七代目・武光が長門国守護職に任ぜられると、その地を訪れ、新たに社殿を建立するよう命じ、社地は西の宮に遷され社殿を造営し祭事を奉仕し代々崇敬されました。

のち、大内弘世が長門国守護職となり、永和三年（1377年）僧の性禅と祀職の豊住がご神託を受けて西の宮から琴崎の地に奉遷されました。これが現在の社地であります。宮碑にはその時の様子が『松柏蒼蔚（しょうはくわいい）にして形琴瑟（きんしつ）の如く 潮松籟（しょうらい）と和す 名を琴崎という 豊住（とよすみ）おもえらく 地は潔く景は勝る 神を住ましむるによろし』と記されております。解釈すると『松の木や葉が生い茂り、三面海に囲まれた岬（崎）の形は琴のようで、波の音と松を通りぬける音がまるで琴の調べのように調和している。地名は琴崎という。私（豊住・当時の宮司）が思うに、清浄な地で景勝地である。よってここに社殿を建立するに絶好の地である。』となります。

藩主毛利氏の崇敬は更に篤く、永禄九年（1566年）社殿造営にあたり、毛利元就は竺雲禅師を参拝させ寄進されました。領主福原氏は代々崇敬篤く、社領

を献じ、元禄十年（1697年）には、福原広頼が社殿を改造し奉られました。福原越後公は、常に当社に参籠し国事の遂行を祈請されたと記録に残ります。

明治六年に郷社に列し、昭和十年十月には、伊勢神宮の御用材を使用し壮麗なる現社殿が新築され、境内外も整備拡張されました。昭和十三年縣社に列せられましたが、戦後、社格制度廃止に伴い、それに代わるものとして特別な神社が別表に掲げられて別表神社と位置付けられ、当社も昭和四十一年七月に別表神社に昇格加列されました。

【御守】

御守の種類が日本一であることが広く知られ、年間を通して大勢の参拝客で境内は賑わいを見せています。近年は遠方から多数の観光バスが来ております。平成29年5月に多種多様な御守頒布に対応するため新授与所を竣功させました。800種類以上の御守を頒布致しております。



【神社内の由緒物】

八幡宮の境内には、由緒ある歴史的遺産が数多く残っています。宇部はかつて炭鉱で栄えたこともあり、多くの炭鉱経営者や地元の有力者が奉納した燈籠などの建造物を目にすることが出来ます。中でも沖ノ山炭鉱の渡邊祐策が大正4年に奉納した「吐輝」の銘の刻まれた大燈籠や昭和3年に奉納された正面大鳥居などを通して往時の栄華を偲ぶことが出来ます。宇部の歴史の縮図が琴崎八幡宮ということが出来ます。



しんめ
神馬 平成26年3月、瀧山健次郎氏(当時、常任総代)による奉納。旧神馬は戦時供出され長らく台座のみ残されていた。旧台座の上に新たに台座を設け神馬を据え付けた。



めおとおがたま
夫婦小賀玉(縁結びの樹) 本殿西側に古くより存在する御神木。小賀玉は榊と同様に神聖な木とされる。二本の幹が根本で繋がり寄り添っているように見えることから、そのように名付けられた。

【著名人の参拝】

1100年以上の歴史を誇る当八幡宮には、数々の参拝客があって、その中には著名人が数多く含まれています。幕末にはいわゆる七卿落ちで長州に落ち延びた七卿の内、錦小路頼徳、東久世通禧の二氏が宇部領主福原越後に案内され当宮を参拝しています。また近年は内閣総理大臣安倍晋三氏、横綱白鵬らが当宮を参拝しています。



安倍晋三内閣総理大臣正式参拝

令和元年8月14日、当宮を正式参拝された。朝から境内には大勢の出迎えの参拝者であふれかえていた。



第69代横綱白鵬正式参拝

平成24年10月28日、大相撲宇部場所(巡業)のため来宇の際に立ち寄られ参拝された。



安倍晋三内閣総理大臣正式参拝時の集合写真

直木賞作家 伊集院静氏正式参拝
平成 30 年 2 月 6 日



上空から見た琴崎八幡宮 (2009 年 8 月撮影)

宗教法人 吉部八幡宮

所在地：宇部市大字東吉部 3234 番地
電話：0836-68-0126

創建 760 年を誇る宇部北部の神様



【御祭神】

(主祭神) 応神天皇 神功皇后 比売大神
(配祀神) 素戔鳴命 天水分神 国水分神 倉稻魂神
猿田彦神 綿津見神 大歳乃神

【境内社】

- 桜尾神社(天神社) 明治 6 年萩市須佐より勧請
- 吉部護国神社(昭和 44 年建立)
吉部出身者 108 柱の英霊を祀る
- 祖霊社(神徒家の祖先を祀る)
宮司 野村清風(23 代)
祢宣 野村敦(24 代)
総代会 会長 重枝尚治 副会長 永見富雄
奉賛会 会長 光井一彦 副会長 花田員吉

【ご挨拶】

人間社会は祖先から子孫へという縦の連帯感が主軸となって横の連帯感が組み立てられる。縦の連帯感が欠落しては、横の連帯感も成り立たない。縦の連帯感とは今生きる我々が始めでもなければ終わりでもない。そこには人間にとって**中継ぎ**という使命が存在する。我々の祖先が最も大事にしたのはこの中継ぎという役割であります。

中継ぎとは、祖先さらに親から受け継がれた人間としての生き方、日本人としての在り方を子や孫達に伝えるという責任を言うのだが、今の世の中は継承家族から核家族という生活環境の変化により、この中継ぎという文化が劣化してしまった。換言すれば今の世の中は世代を越えた**価値観の共有**が計れなくなった時代とも言える。価値観の共有とは互いが認め合う、助け合う、協力しあう、譲り合う、認め合うという意味がなければ成り立たない。

我々の親や祖先は家族の中でこの世代を越えた価値観の共有の大切さを見事に守り抜いてきた。日本に現存する最古の書と銅 5 年(712)に編纂された『古事記』の中に「稽古照今」という文句がありますが、この文句は**過去、現代、未来との連続性**の大切さを説いていますが、正に神社の存在はここに源を發し

ていると思います。

【御由緒】

吉部八幡宮は鎌倉時代、第 90 代龜山天皇、弘長元年(1261)長門の領主 厚東武朝の弟、物部武村の命により野村大炊介、野村左エ門の二人を派遣し、豊前国(大分県)鎮座の宇佐八幡宮よりご分霊を勧請し社を造営して、同年八月二十二日に本殿に奉斎し野村大炊介、野村左エ門を神職として奉仕せしめ、社領 30 石を献じ、領内の大社として年中の祭事を厳修する後の大内氏の時代に至っては、崇敬者ますます篤く社領も従前の通り献上し、大内義隆に至っては天文 9 年(1540)楼門一字を奉建し、「八幡宮」の三字を自書して奉額する。この楼門は大内義隆が武運長久、産子安全、五穀豊饒を祈願して寄進したものと伝えられる。建坪 14.8 平方メートルの寄棟造りで、松及び楠材を用いている。梁を支える「かえる股」の彫刻には大内菱があり、室町時代の面影をとどめ、旧楠町時代では最古の建造物で歴史的、文化的にも高く評価された。しかし、平成 3 年の大台風によって倒壊したが貴重な大内菱建材のため多額の費用を募って再建し今も当時の名残を留めている。

毛利氏によって長門国を領するに及び、国主の祈願社として年中の祭事崇厳を極め、今も本殿には毛利氏の家紋が刻まれその崇敬の念の篤さを物語っている。また毛利氏の一大事業であった三日尻(防府市)小郡高泊(山陽小野田市)の塩田三開作工事成就の祈願社となる。明治 6 年、旧郷社に列せられ同 39 年、勅令第 96 号に基づいて神饒幣串供進神社に列格する。

平成 4 年御鎮座 730 年の式年大祭では建物、境内の大改修を行い、平成 29 年のご鎮座 755 年にはご神殿をはじめ社殿装飾を改装し次世代に継承する大事業を終えた。

【年間行事】

- ◎1 月 1 日 初詣で(元旦祭)
- ◎1 月成人の日 どんど焼き神事
- ◎2 月 3 日 節分祭(星祭り)
- ◎2 月 11 日 建国祭(紀元節祭)
- ◎4 月 1 日 春季大祭
- ◎4 月中旬 春季祖霊祭
- ◎4 月 25 日 護国神社例祭
- ◎4 月中旬 祈年祭
- ◎8 月 5 日 天満宮ご誕辰祭
- ◎9 月 1 日 風鎮祭
- ◎11 月 3 日 秋季大祭(芋煮え祭)御神幸祭
- ◎11 月 23 日 天満宮例祭
- ◎11 月下旬 秋季祖霊祭
- ◎12 月上旬 新嘗祭

【祠官系譜】

初代 野村大炊介藤原信晴- 2 代 野村右近函藤原信清- 3 代 野村民部太夫藤原信勝- 4 代 野村米女之介藤原信元- 5 代 野村左京藤原信貞- 6 代 野村式部藤原信興- 7 代 野村内膳藤原信則- 8 代野村大内藤原信吉- 9 代 野村神四郎藤原信常- 10 代 野村左馬藤原信春- 11 代 野村左馬藤原信兼- 12 代野村左

馬藤原信重- 13代 野村齊宮藤原信忠- 14代野村宮内藤原信正- 15代 野村丹宮藤原信次- 16代 野村岩見藤原信幸- 17代 野村恰藤原信定- 18代野村但馬藤原重定- 19代 野村相模守藤原信清- 20代 野村権正- 21代 野村清臣- 22代 野村正臣- 23代 野村清風- 24代 野村 敦(祢宣)- 25代 野村重彬(予)

【芋煮え神事】

古来吉部八幡宮には「芋煮え神事」と称する古式があり、今もご鎮座以来 755 年不変の形でその姿をとどめている。

大祭日(11月3日)の早旦、宮司は潔斎して狩衣立烏帽子にて上殿、古式の神事奉仕の儀を奏上して神殿西側の浜床でこの神事を行う。まず払い式にて式具を浄め、榊と杉の枯葉(これ以外の葉は使用しないが、その理由は定かでない)で火を焚いて炭火をおこし、芋9個と餅9個を煮て神殿に供える古式ある。この儀式に使用する箸と皿は榊の枝と榊の葉と定められている。その理由は定かではないが、榊は神事に使用する清浄な木であるところから決められたと推測できる。あるいは榊は(栄え木)つまり栄える木として縁起に由来したとも考えられる。

言い伝えにその日の祭事神慮に副わざる事、或は不吉な事のある時は芋の煮えが悪く、翌年は凶作になると聞き及ぶ。9個という数は勧請当時総代世話人が9人であつたという定説から今も守られている。(ちなみに現在の総代数は22人)。

この古式の由来は神社のご鎮座に起源を發したもので、弘長元年(1261)まで遡る。その年宇佐八幡宮より、ご分霊を勧請して同年8月22日の鎮座祭の直会(なおらい)の席における領主以下、諸役人の賄い役を申し付けられた主人は早朝から家人や傭人を促して準備を進めている処へ、時刻の相違か予定より早く到着したので、賄いの膳が整わぬ中に早や引き受けから使者が来て「直会の席が整うたから早く出仕せよ」との達しがあつた。

主人は驚いて仕度を急ぐうちに、2の使者更に3の使者もやって来た。しかし、その日の献立の中に芋の煮物があつて、まだよく煮えていないが第3の使者が来れば如何なる事情にせよ一刻の猶予も許されない定めから、でき合いのまま運び出した後、主人は残りの品を検するに芋の煮加減は半ばにも及んでいなかった。半煮えの芋を領主の膳に供したら、お怒りに触れるのは必定、仕儀によっては一家の生命に関する一大事にもなりかねない。主人は折角の名誉の役も背いて身の難儀となつたことを家族と共に悲しみ憂い、この上は神力に縋るより外なしと産土大神を遙かに伏し拝み、一心込めて祈願した。

まもなく賄い役に御用の筋あるから即刻直会の席に出頭せよとの伝言をもって使者がやってきた。主人は案の定と覚悟はしていたものの、みはや生きた、醜もせず色青ざめて直会の席に悄然と罷りてた。

すると領主から「今日の料理は誠に結構であつた。ことに芋の煮物は珍しく賞味した」と以外にも褒めことばをいただいた。主人は夢かとはばかり喜び、うれし涙に咽びつつ面目をほどこして退席した。これ

ぞ正に大神の御加護と直ちに神殿に詣で御神徳の辱なさに奉謝したという。爾来、主人は毎年の大祭に芋の煮物を携えて氏神さまに詣で神恩を奉齋した。この有様が大祭の行事となり、神職において芋煮えと神饌を供するようになった。これが有名な芋煮え神事の由来である。

【吉部文化推進委員会結成と伝統村芝居】

元来吉部は芸達者の多い土地柄で、戦後間もなく村民達の敗戦の悲哀の心の慰めとして結成された吉部歌舞伎の影響もあつて、昭和40年代の始めの頃、重岡正己氏が中心となって吉部村芝居が誕生した。村芝居は秋の風鎮祭に奉納され、その反響は吉部地区に留まらず近郊まで及ぶようになった。これまで村芝居の出演者は80人近くを数え名実共に吉部文化推進の源として今日に至っている。数年に一度の公演だが、それが又、新鮮な魅力として地区の人達の人気を博している。そうした機運が高まって郷土の文化として後世に残そうと昭和41年に吉部文化推進委員会が結成され、早速、公民館活動の一環として設置された吉部郷土資料館、吉部八幡宮22代野村正臣宮司の作詞に、当時著名な鈴木淳先生に作曲を依頼し「吉部音頭」の完成は委員会の画期的事業となつた。ある年の村芝居の当日舞台装置も出来上がり、公演まじかになって雨が降りだし、急遽会場を中学校の体育館に移動するという苦い体験から奉納余興をはじめ神社の諸行事、吉部地区全体の文化行事に有効に活用できる、全天候型の施設を造ろうとの気運が高まり、吉部文化推進委員会が中核となって平成元年11月奉祝ご即位、御大典記念事業も兼ねて、吉部八幡宮境内に名称『吉部文化センター』を完成させ神社にご寄贈いただいた。地域発展に多大な功績が認められ、平成20年11月に山口県文化功労賞を受賞した。今も3年に一度吉部村芝居の公演は吉部八幡宮の秋季大祭(芋煮え祭)に奉納され、宇部市以外の近郷からも芝居好きの人々が境内狭しと参拝し、大盛況を見せている。

【吉部地区に鎮座する神社】

- (1区) 天神社 祇園社 弁財天社 貴船神社
- (2区) 河内神社 弁財天社 綿津見神社 火除神社
- (4区) 荒神社 若宮社
- (5区) 秋葉神社 大歳神社 荒神社
- (6区) 若宮社
- (7区) 恵比須社 宮地神社 金比羅権現社
- (8区) 荒神社 赤崎神社
- (9区) 弁財天社
- (10区) 荒神社 焼火神社
- (11区) 山王権現社 十二神社
- (12区) 河内神社 荒神社 八王子神社 金比羅社
- (13区) 河内神社 稻荷神社 地神社 比砂門社
- (14区) 若宮社 権現社 金比羅社
- (15区) 黄神社
- (16区) 若宮社 荒神社 祇園社 焼火社 河内神社 山王権現社 稻荷神社
- (17区) 焼火神社 荒神社 西門弁財天社
- (19区) 荒神社 大神宮
- (20区) 荒神社 焼火神社

宗教法人 松郷八幡宮 (しょうごうはちまんぐう)

所在地：宇部市大字東須恵 1206

電話：0836-41-8351

1250年の歴史を誇る厚南の氏神様

【法人】

宮司：白石 真三

創祀：771年（宝亀二年）



【理念】

その先の、子供たちへ続く心のふるさと

【御挨拶】

当宮は東須恵の鎮守として宮川（梅田川）がめぐる小高い山に鎮座しております。この山はその昔、「壁田の薬師山」と呼ばれ薬師如来が祀られておりました。寛正六年（一四六五）、当時の所司代三戸有次が岡の原（現在の岡田屋）より現在の地へ社殿を建立し遷座いたしました。氏神さまは地域に住む子どもの誕生から成長の過程など日々の生活、地域の安全や平穏を見守ってくださっています。先人が崇敬、護持してきた神社を地域の生活文化の拠点として今後も引き継いでまいります。

【歴史】

771年(宝亀2年) 創祀。
1271年(文永8年) 【創祀500年】
1465年(寛正6年) 当郷所司代三戸佐渡守有次が薬師寺（壁田）に遷座して社殿を建立。以来、松江八幡宮と奉詔す。
1659年(万治2年) 東須恵八ヶ村氏子が再建立
1771年(明和8年) 【創祀1000年】
1881年(明治14年) 社殿を大改築し現在の社殿に続く。

1979年(昭和54年) 境内の森全体が宇部市天然記念物に指定された。

2021年(令和3年) 【創祀1250年】

【由緒】

第十四代仲哀天皇の御代、神功皇后が三韓に出兵のため西下の際、穴門国（長門国厚狭郡）で伐採材木で軍船を整え、御神託によって住吉大神を祀り、海上平安を祈って幣を残して去られた。里の人々はこれを敬い祠を建てて幣を納めて奉斎した。その所が東須恵岡の原（岡田屋）である。即ちこれが当宮の起りである。

その後、厚東氏五代武仁公が祠を再建し、光仁天皇宝亀辛亥二年（七七一）宇佐八幡宮を勧請し、高松太郎左エ門尉武彦（宮司家祖先）に祀らせて神領を付置した。

厚東氏没後は大内左京大夫政弘公が国務となり、当郷所司代三戸佐渡守有次が寛正乙酉六年（一四六五）これを薬師寺（壁田）に遷座して社殿を建立した。以来この社を松江八幡宮と奉詔す。

その後万治二年（一六五九）東須恵八ヶ村氏子が再建立し永き年月の間修理して神威の発揚に努め、明治十四年（一八八一）氏子中の人々御神徳を仰ぎ社殿の大改築をした。これが現在の神殿及び拝殿である。

昭和五十四年には境内の森全体が宇部市天然記念物に指定された。

【祭事歴】

- 1月1日 歳旦祭
- 2月3日 節分祭
- 5月20日 春祭
- 7月20日 夏祭
- 10月中旬（日曜日）秋祭
- 12月上旬 新嘗祭



《境内の施設》

【御旅所】

御旅所は、社殿から数 100 メートルの所にある。明治から大正にかけて寄進された。昔は海辺で松の木が並ぶ風光明媚な場所であったと思われる。



【一ノ鳥居】

1738 年（元文 5 年）に大鳥居が寄進された。現存する最も古い鳥居で、この他にも 2 基が寄進された。



【表参道】

92 段の石段と、その両側に 18 基の石灯籠が建てられている。1858 年（安政 5 年）に寄進された 12 基の石灯籠の寄進者名は摩滅して読み取れないものが多い。残りの 6 基は昭和 7 年の寄進による。



【社 叢】

1979 年指定宇部市文化財。ミミズバイやスダジイが群集する社叢で、市内における重要な植物が保存される地域です。社叢内全域にミミズバイが自生しており、市内唯一の自生地となっています。



【黒石公園】

江戸時代、境内では祭の行事として「流鏝馬（やぶさめ）」が行われた。その後、改作の農耕に使われた馬で宮競馬が始まった。戦後の復興資金捻出のため、余興を兼ねて宇部の神社で競馬が開催された。1953（昭 28）年に、宇部市は競馬運営の中止を決めた。



【裏参道】

中野地区の方が利用しやすいように、裏参道が開かれた。



中津瀬神社 (御鎮座 220 年、通称：水神様)

所在地：宇部市新天町 2-2-19

電話：0836-32-4138



【法人】

宮司：丸茂 雄治

創建：1801 年 (享和元年)

祭神：綿津見神・瀬織津姫神・倉稻魂神

配祀神：市杵島姫神・田心姫神・湍津姫神・八王子神・
赤崎大明神・稻荷神・金刀比羅神



【由緒沿革】

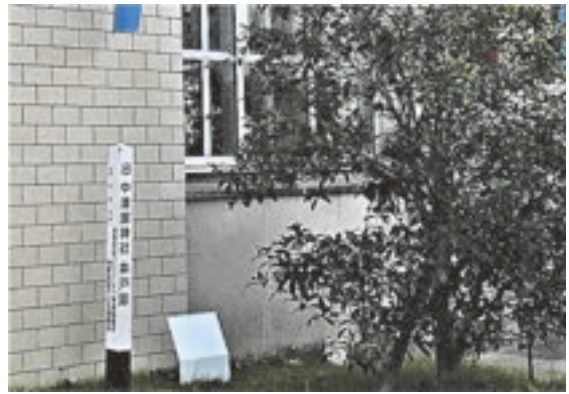
江戸時代後期の享和元年 (1801) の創建。往時当地一帯は小高な砂州で雨が續くたびに東流の塩田川と西流の本川の合流域 (樋の口) は氾濫し、落差の無い下流全域にわたり甚大な被害を及ぼし、作物もできない無毛上の地で、人々の暮しは困窮を極めていた。

時の宇部給領主毛利家永代家老福原房純公は、寛政 9 年 (1797) 合流域から海へ直線に注ぐ新川を開削し、翌寛政 10 年 (1798) 3 月無事完工。

当該一大土木事業により当地一帯は肥沃な良田、豊かな農村へと一新し、河口域は内陸の山村からの集荷のほか、水上交易が著しく進展し連絡基地としてまた船舶の停泊港として問屋が建ち並び商業港として栄えて行きました。

享和元年 (1801) 12 月、福原房純公は、新川疎通の神助を謝し邑里鎮護の神として海・川・農耕の神を奉斎すべく新川左岸白砂青松地に社殿を創建。

(注：旧宇部銀行館・現ヒストリア宇部の常盤通り歩道側に旧神社境内地の井戸跡の碑が立っている。右上写真)



明治 41 年 (1908)、琴芝台地に祀ってあった八王子・稻荷・赤崎の三神並びに境内に祀ってあった市杵島姫神を合配祀する。

明治 44 年 (1911)、二町ばかり (218m) 東方に社殿境内を移す。大正 8 年村社。昭和 3 年 (1928) 御大典記念に堂宇大改築し面目を一新。

昭和 20 年 7 月 2 日未明の宇部大空襲により社殿堂宇全て被災し焦土と化す。幸いご神体は境内第一防空壕内に奉安、翌 3 日藤山西宮八幡宮に奉遷し、一夜出雲岩戸神樂をして御神慮をお慰めする。10 月西向きの仮殿 (西村鉄工所寄贈) にご奉遷申し上げる。

昭和 23 年、境内に日高義尚氏奉斎の福稲成神社 (太鼓谷稲成神社分霊) を奉斎。

昭和 24 年、宇部市の戦災復興土地区画整理を経て、境内地は現在の社地のみと大きく縮小した。同年、常盤公園内の金毘羅宮の社殿を譲り受け移築。

昭和 26 年、御鎮座 150 年式年祭記念として社殿堂宇の新・改築を行う。

昭和 27 年、渡邊祐策翁奉斎の金毘羅神社を合祀。

昭和 51 年、御鎮座 175 年。平成 13 年御鎮座 200 年式年祭記念として、社殿、鳥居、玉垣等平成大修造を行い、神社の尊厳護持のため崇敬会組織など全般にわたり刷新して面目を一新。

来る令和 3 年 (2021) は、御鎮座 220 年の慶賀の年を迎えます。奇しくも宇部市市制 100 周年に当たります。

当神社は通称「水神様」と親しまれ、万物の命の源である「水」の御神徳をして、人々の心のオアシス・郷土の守り神として篤く信仰され、工業都市として発展を遂げてきた宇部市の象徴、市民憩いの神社として、また市中心市街地の要に鎮座するご縁を以って、まちづくり、賑わいづくり、地域活性の一助たるべく総代一同神明奉仕に専心してまいります。

【水神様】

中津瀬神社は、海・川・農耕所謂「水の神」を奉斎していることから人々より親しみを込めて水神様と呼ばれている。境内にはご神水の美味なる水を求める人々で賑わう水汲み場や神池がある。

また神社の御朱印には「水神」の文字が記される。



【新川疎通壱百年記念碑】



明治 31 年 5 月新川（真締川）疎通百年記念祭を執行し、同年 9 月新川疎通壱百年記念碑が境内に建立された。この記念碑は、その後 2 度の神社移転を経て、今日常盤通りに面する鳥居のそばにあり、神社と共に宇部の街の発展を見守り続けている。

【新川まつり】

中津瀬神社の春祭り（旧暦 4 月 5 日）は境内に山里や海辺の邑からの様々な生活用具の交換市が立ち、何時しか庶民の交流の場として神社周辺は商業の発展を願う人々で年毎に賑わいを増し、今日では春季例大祭は新暦の 5 月 4 日となり其の名も「新川市祭」として連綿と継承されている。



【節分祭】

立春の前日即ち節分は冬と春の節目、昔より大晦日に当たるとされ新年を迎えるに際し邪気を祓う追儺や豆まきを行い、新しい年の無病息災・家内安全を願う大勢の参拝者で賑い出店が並び「福あめ・豆茶」が名物になっている。



【福稲成神社】（津和野太鼓谷稲成神社御分霊勧請）

境内には写真の福稲成神社のほか、龍神社、恵比寿大黒社、宮市天神社、産霊・庚申社が奉斎されている。



【狛犬の逸話】（狛犬がライオン像）

戦争末期昭和 20 年 7 月 2 日の宇部大空襲で社殿堂宇は全て焼失した。戦後、神社再建のために常盤湖の神社の社殿が移築された。また狛犬は、真締川に架かる旧錦橋の親柱のライオン像 4 体のうち 2 体が、中津瀬神社の狛犬として移築された。



宗教法人 南方八幡宮

所在地：宇部市大字西岐波 2467

電話：0836-51-2407

鎮守の柱に優美な社殿



代表役員宮司：宮崎 賢次

創建：751年（天平勝宝3年）



【理念】

祭祀のことは徳と敬とにあり

【ご挨拶】

縁あって当社の後継となり、宮司に就任して9年になります。まだまだ地域の信仰の拠所としての貢献も足らず、役割は果たせておりませんが、努力を重ねていきますのでよろしくお願いいたします。

【沿革】

御創建は、奈良時代の天平勝宝3年（751）、厚東氏4代の白松太夫武綱公が、豊前国宇佐八幡宮の御分霊を迎え、古尾（東岐波古尾）の地に社を建て吉敷郡賀保荘の鎮守としたことに始まる。鎌倉時代の天福元年（1233）、大内15世多々良弘貞の時、賀保荘を南北に分け、南は吉沢（西岐波上の原）の清水山に仮宮を建て、その後建長7年（1255）、現在地に奉遷して南方八幡宮とし、北は須田村に北方八幡宮としてそれぞれ分祀された。その後、室町時代の応永15年（1408）、火災により、本社・末社・神宝等悉く焼失した。そのため、応永17年（1410）、領家・地頭・公文等の三家は、守護大内左京大夫盛見の命を奉じて、再建に着手、本殿・幣殿・舞殿・若宮までの造営を終え、元龜2年（1571）には懸念であった楼門も造営された。江戸時代の慶長10年（1605）頃には当

社は大変衰退した。そのためか、疫病流行し、五穀も稔らず、村民は恐怖し、社殿造修のことを藩庁に上申したが許可されなかった。漸く寛永14年（1637）に至り復旧の許諾を得た。現在の社殿は概ねその時の建築であるが、本殿は元禄8年（1695）楼門は享保5年（1720）、解体修理して再建した。明治6年（1873）、旧社格の郷社に列し、昭和18年（1943）県社に昇格した。

昭和37年（1962）に、御祭神である応神天皇（生誕）1700年・御鎮座1210年の式年大祭を斎行し、記念事業として本殿を檜皮葺、幣殿と拝殿を柿葺に葺き替えを行う。例祭は古来陰暦8月15日で、夜渡祭・神幸祭・流鏝馬・競馬で賑わったが、昭和47年（1972）に流鏝馬・神役馬・競馬を中止、昭和55年（1980）、例祭日を現在の10月第2日曜日に変更した。昭和50年（1975）、戦後の農地改革により接収されていた旧献穀田を買い戻し、御旅所を移設し、併せて参拝者駐車場として整備した。昭和55年（1980）、旧競馬場と買収した山林1部や隣接農地が緑地運動公園として南方公園に整備された。昭和63年（1988）に式年大祭を斎行し、幣殿・拝殿の銅板葺き替えを行った。平成2年（1990）、御大典記念事業として御大典記念碑建立、守札頒布所を新築。平成6年（1994）、第61回伊勢神宮式年遷宮を奉賛し、また皇太子殿下御成婚記念事業として、氏子会館新築、周辺境内整備を行った。平成26年（2014）の式年大祭には参道補修等を行った。現在、令和御大典記念事業として、本殿玉垣改修や境内林の整備を予定している。

751年	創建
1255年	現在地に奉遷して南方八幡宮とした
1571年	楼門を造営
1637年	復旧の許諾を得た
1751年	【創建1000年】
1873年	旧社格の郷社に列した
1943年	県社に昇格
1962年	御祭神である応神天皇（生誕）1700年・御鎮座1210年の式年大祭を斎行
1988年	式年大祭を斎行
1994年	御大典記念碑建立
2014年	式年大祭
2021年	創建1270年を迎える

【社殿】

当社の社殿は、室町時代の周防国の八幡宮建築に見られる、楼門から本殿までを直線に結ぶ大内様式と呼ばれる様式で建てられ、優美な姿を現在に伝えています。

【年間の祭典】

1月 1日	歳旦祭
2月 3日	節分祭
2月 下旬	祈年祭
4月 1日	勸学祭
4月 16日	若宮社例祭
6月 30日	大祓
7月 22日	虫除祈願祭
8月 25日	風鎮祭
10月第2日曜日	例祭・神幸祭
12月 15日	新嘗祭
12月 31日	大祓・除夜祭

【将来】

当宮は御創建以来、1265年に亘り、地域の守護神として幾多の先人の努力により守られ、連綿と崇敬の歴史を刻んできました。その歴史と伝統を絶やすことなく次世代に残していくのが使命と考えております。時勢混沌の中、信仰の場として皆様の心の拠所とされるのは勿論ですが、最近では周囲に家屋も増え、神社を取り巻く環境も刻々と変化しています。従来の荘厳な佇まいを保持していくとともに、時代に合った運営もこれからは必要となってくると思われれます。

【楼門】

左右に翼廊があるのが特徴である。中央は通路となっているが、以前は翼廊と同じ高さに床があり拝殿を兼ねていたと思われる。山口県独特の建築様式であるが、宇部市内では唯一の建造物。



【灯籠】

江戸小船町、紀伊國屋太兵衛が文化10年(1814)に寄進したと銘があるひときわ立派な灯籠である。江戸と床波の回漕の歴史を窺わせる。



【釣鐘】

神社であるが釣鐘がある。当宮には江戸時代まで、別当寺として弘濟寺が併設されていた。最初の釣鐘は、天正15年(1587)に盗まれ、盗人舟で逃げる途中、豊後嵯峨関で嵐に遭い、海中に没したと伝えられる。2代目は寛永13年(1636)、3代目は文政年中に鑄造されたが先の大戦に供出。4代目は昭和31年(1956)に作られ現在に至る。雨乞いに靈驗あらたかな鐘として記録に残る。



【紙本着色南方八幡宮縁起絵巻】

宇部市指定有形文化財。通常の絵巻は上下2巻仕立てですが、本絵巻は3巻で、江戸時代享保年間に弘濟寺が補修した際に上巻を2つに分けたと考えられます。絵は地方の絵師によるものと思われれますが、詞書(文字の部分)の筆致は優れています。作者、製作年代は不明ですが、絵の随所に中世の特徴が見られ、室町時代のものと考えられます。(宇部市ホームページより引用)



社会医療法人 いち樹会 尾中病院

所在地：宇部市寿町一丁目3番28号
電話：0836-31-2133

【基本理念】

あなたとずっと「生きる」を考える



【法人概要】

所在地	山口県宇部市寿町一丁目3番28号
開設日	1946年（昭和21年）12月29日
開設者	理事長 尾中 宇蘭
建物概要	鉄筋コンクリート造 地上6階建て 建築面積2,032㎡ 延床面積8,074㎡
病床数	（3階）一般病棟60床 （うち地域包括ケア病床46床） （4階）療養病棟50床 （5階）介護医療院60床
診療科	内科 胃腸内科 循環器内科 呼吸器内科 外科 整形外科 脳神経外科 皮膚科 放射線科 リハビリテーション科
施設認定 各種指定	病院群輪番制二次救急病院 労災保険指定 特定疾患治療取扱 結核予防法指定
附帯施設	居宅介護支援事業所 院内保育所「すまいるぼっけ」

【ご挨拶】

■新病院へ移転し、地域に求められる病院へ

社会医療法人いち樹会 尾中病院は山口県宇部市

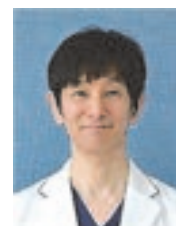
の中心部に位置し、昭和21年（1946年）に診療所として個人創業し、昭和29年（1954年）に法人化して以来、救急告示病院として地域医療に邁進して参りました。

平成22年（2010年）に特定医療法人から社会医療法人に転換し、二次救急医療機関として、質の高い初期救急医療を提供すべく、近隣の病院、診療所と連携して協力体制の構築を図っています。

このように地域医療を担って参りましたが、施設の老朽化が進み、耐震性を確保するため、近隣の土地を取得し、新築移転することになりました。

現在、高齢化に伴い、地域医療構想の策定、地域支援事業の実施をはじめとする2025年に向けた医療介護提供体制（地域包括ケアシステム）が進められています。

このような環境に於いて、新病院では「予防から救急・医療・介護・在宅までシームレスなサービスを提供する」を将来ビジョンとして、予防としての健康診断事業、在宅復帰・社会参加支援・健康増進のための通所・訪問リハビリテーションなど幅広い複合事業へ拡充し、地域包括ケアシステムの中で、地域に根ざした地域医療連携の中心的役割を果たせるよう努めて参ります。



理事長 尾中 宇蘭

■理念、ロゴマークの刷新

新病院への移転を機に、法人理念を「あなたとずっと「生きる」を考える」へ刷新しました。新たな理念には、病める人やそのご家族だけでなく、地域にお住まいの方々、それを支える地域の医療・介護関係者、行政に携わるの方々、すなわち当院に関わりを持ってくださる全ての「あなた」とともに、病（やまい）を癒すこと、手助けが必要な方を支えること、力を取り戻すお手伝いをする、より長く健康を保つこと、自分らしい最後を迎えること、そういったすべての「生きる」に真剣に向き合い、とことん考え、『すべての「あなた」のお役に立ちたい』そういった思いがこめられています。

【新たなロゴマークのコンセプト】

「医療・介護に留まらず、予防や終末期援助など、様々な枝を伸ばし地域に根を張る樹を育てる」



【特 徴】

■救急告示病院

救急病院等を定める省令に基づき、県知事が認定した病院として、救急患者を積極的に受け入れています。24時間365日救急医療を提供できる体制を整えています。

■健診センターの設立

新病院に移行してより、外来の患者さんとは別の健診専用の独立フロアになっており、再検査・精密検査は尾中病院で受診することができます。また2020年10月から全国健康保険協会(協会けんぽ)生活習慣病予防健診実施医療機関に認定されました。

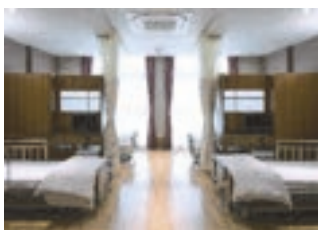


■介護医療院の新設

新病院への移転新築を機に、2020年3月より介護療養型医療施設を介護医療院に転換いたしました。介護医療院では長期にわたり療養が必要な要介護者に対して「長期療養のための医療」と「日常生活上のお世話(介護)」を一体的に提供します。

当院では「ひとりひとりの生きるに寄り添う」を理念に掲げ、自立に向けての支援を提供し、良質の施設及び家庭的な生活・療養環境を目指します。

◆居室(4人部屋)



◆コミュニケーションルーム



【院内施設のご紹介】

◆1F 総合受付ホール



◆1F MRI撮影装置



◆3F 病室(特別室)



◆4F 機能訓練室



◆4F 談話ルーム



◆6F 屋上リハビリ庭園



【社会医療法人 いち樹会 沿革】

昭和21年 4月29日	診療所を開設 (開設者 尾中正春)
昭和28年 1月7日	病院開設許可
昭和29年 12月25日	医療法人尾中病院設立 (理事長 尾中正春 就任)
昭和40年 2月	救急告示病院指定
昭和41年 3月	特定医療法人に改組
昭和48年 9月	旧館4階増築工事完成
昭和48年10月	理事長 尾中福恵 就任
平成3年 4月	院内保育施設開設
平成12年 4月	介護事業開始(居宅介護支援事業・介護療養型医療施設)
平成17年 5月	理事長 尾中宇蘭 就任
平成22年 4月	社会医療法人 認可
平成27年 7月	地域包括ケア病床 開始
平成30年 4月	院長 尾中宇蘭 就任 (理事長兼務)
平成30年 12月19日	新病院建設着工 (施工業者 株奥村組)
令和1年 11月12日	法人名・医療機関名変更(社会医療法人いち樹会、社会医療法人いち樹会 尾中病院)
令和2年 2月1日	新病院竣工
令和2年 3月1日	新築移転、住所地変更
令和2年 3月1日	療養病棟60床から50床へ減床
令和2年 3月1日	介護療養型医療施設(60床)介護医療院に転換

株式会社 伊藤回生堂

所在地：宇部市琴芝町 2-5-25
電話：0836-32-0874

創業 100 年の老舗薬局



【企業データ】

代表取締役：清水 眞理子

資本金：1,200 万円

従業員：20 名

創業：1920 年（大正 9 年）1 月

【理念】

1. 自信のある薬を差し上げたか。
2. 本当に親切であったか。
3. 十分に説明を差し上げたか。
4. 満足して帰られたか。
5. 努力に不足はなかったか。

【ご挨拶】

当社は大正 9（1920）年 1 月に伊藤眞一、おの枝が医薬品卸及び小売業として西本町一丁目（現在の新町）で創業し、現在は、山口県宇部市内で 3 店舗の薬局を展開しています。大学病院や総合病院の近くでは 3,000 種を超える医薬品を揃えるほか、漢方（生薬）の調剤や OTC 医薬品、介護用品なども取り扱っています。

山口大学医学部附属病院前にある「回生堂薬局」と、地域に根ざした総合病院・社会医療法人いち樹会尾中病院の近くにある「あい薬局」は、さまざまな診療科の医薬品を取り扱っています。また、当社では早い段階から漢方（生薬）の調剤に取り組んでおり、「漢方薬・生薬認定薬剤師」の資格を持つ薬剤師も複数在籍。現在、認定実務実習指導薬剤師が 2 名、スポーツファーマシストが 2 名、研修認定薬剤師 6 名在籍しており、国体やインカレ開催時には、他県を含め多くの問い合わせがありました。一方、OTC 医薬品も幅広く取り扱っており、地域の人々にとっての“かかりつけ薬局”として、患者様の家族構成やお仕事なども把握しながら、健康や介護などに関するさまざまな相談に応えています。

当社は、100 年の間、地域の皆様に支えられてきました。私たちは次の 100 年も、「最大よりも最良の薬局

たらん」をモットーに、地域に根ざした“かかりつけ薬局”として、地域の人々に愛される薬局をめざしていきます。

【企業のあゆみ】

1920 年 1 月	医薬品卸及び小売業として西本町一丁目（現在の新町）で創業
1945 年	宇部空襲にて家屋喪失
1945 年	琴芝町に移転
1947 年	回生堂薬局開局 （万来町…現在のの新町）
1950 年 11 月	株式会社に組織化し卸売業と小売業を行う
1952 年	回生堂薬局 小串通りに移転
1965 年	卸売業を分社化し小売業に特化
1970 年 1 月	【創業 50 周年】
1976 年 10 月	伊藤薬局開局
1996 年 6 月	回生堂薬局が都市計画にて新店舗に移設
1996 年 8 月	あい薬局開局（常盤町）
2000 年 4 月	㈱伊藤回生堂にて介護事業開始
2006 年 9 月	宇部井筒屋地下 1 階にて、あい宇部井筒屋店（店舗販売業）を開設
2018 年 12 月	宇部井筒屋閉店に伴い、あい宇部井筒屋店閉店
2020 年 1 月	【創業 100 周年】
2020 年 3 月	あい薬局移転（寿町）
2020 年 6 月	㈱伊藤回生堂 介護事業廃止

1920 年 1 月に現在のの新町で創業。この年、宇部市制元年にあたる。



昭和 15（1940）年頃の伊藤回生堂

1921年（宇部市制2年）に発行された『宇部市新地図』の裏面に当社の広告が記載されている。



創業当時の広告（本誌巻頭を参照）

【事業内容】

- ◇ 保険調剤薬局、漢方相談薬局
- ◇ 一般医薬品販売
- ◇ 化粧品、医薬部外品、健康食品、食品の店頭販売
- ◇ 不動産賃貸

【店舗紹介】

《伊藤回生堂》 宇部市琴芝町 2-5-25
 本社。現在は、郵便切手類及び印紙の販売を行っています。

《伊藤薬局》 宇部市寿町 2-3-24
 昭和51（1976）年から開局しています。一般用医薬品、漢方薬及び化粧品等を扱う薬局で、漢方のすぐ飲める煎じ薬もあります。お出かけ途中に気軽に寄っていただけて、ゆっくりと相談できる薬局を目指しています。



《回生堂薬局》 宇部市南小串 2-3-5
 山口大学医学部附属病院前にあり（山口大学医学部附属病院が県立大学の頃より開局しています）、平成8（1996）年に宇部市の都市計画で新しく移設、開設した店で、様々な診療科の処方箋を受け付けており、調剤機器も地域の薬局に先駆けて最新のシステムを導入しております。また、一般用医薬品、化粧品等も扱っている店です。さらに検体測定室を設置して検体測定も行っており、保険調剤だけではなく健康相談、医療相談を積極的に受付けております。



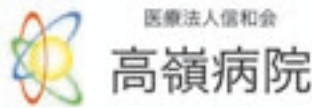
《あい薬局》 宇部市寿町 1-3-18
 平成8（1996）年に開局しました。幅広い処方箋を取り扱っています。特に漢方薬の処方箋も取り扱っています。又、一般用医薬品、化粧品等も充実しています。令和2（2020）年3月に移転しました。調剤システムを回生堂薬局と同様に新しくしました。保険調剤だけではなく健康相談に重きを置いています。年配の方にもゆっくりと過ごせる薬局を目指しています。



医療法人 信和会 高嶺病院

所在地：宇部市大字善和 187 番地の 2
電 話：0836-62-1100

依存症治療の長年の
実績があります



【病院データ】

理事長／院長：橋本 隆

副院長：佐々木 順

【理念】

患者様とご家族への優しい医療を目指す

【ご挨拶】

現代は少子高齢化、バブルの崩壊後、ストレスが多い時代です。不透明で希望がもてなくなるせいか、アルコールやギャンブル、ネット・ゲームなど依存の問題が増加しています。

問題が悪化すると心身の不調ともに、周囲の人達を巻き込んで大変な不幸、経済的損失を引き起こします。飲酒運転、失業、対人関係のトラブルや家庭崩壊などはその一例です。

また最近では、女性、定年退職後や若年層の来院が増加してきました。アルコールは麻薬、覚醒剤やトランキライザーと同様の依存性の薬物です。ギャンブルやネット・ゲームもやめられない状況の中にはアルコール依存と同様の脳の活動が見られます。それらの使用を繰り返していると、「依存症」という疾患に罹ってしまうことは少なくありません。

当院は 1982 年から依存症専門病院として地域で依存症治療を行ってきました。多くの回復者が地域で生活をしています。私達は依存対象をやめるだけでなく、人の心の問題の解決を目指しています。依存の問題でお悩みのご本人、ご家族は是非ご相談ください。

【病院のあゆみ】

1982 年 3 月	開設 (109 床)、夜間例会開始
1983 年 1 月	高嶺病院同窓会開始
1987 年 1 月	医療法人認可
1987 年 6 月	増床 (127 床)
2000 年 6 月	第 22 回日本アルコール関連問題学会山口大会開催
2005 年 7 月	新病院開設 (現住所に移転)
2018 年 8 月	第 35 回中国・四国アルコール関連問題学会山口大会開催
2019 年 3 月	山口県依存症専門医療機関(アルコール・ギャンブル等) 選定
2020 年 3 月	山口県依存症治療拠点機関(アルコール・ギャンブル等) 選定

【治療について】

《治療プログラム》

当院では、個人面接、集団精神療法（ミーティング）、精神科作業療法などを行っています。

依存症からの回復に向けた治療の柱はミーティングとなっており、様々な角度から集団の中で自分の問題を振り返り、これからの生き方を考える機会となっています。同じ病気を抱える仲間との交流も大切です。また、AA 勉強会や断酒会メッセージ、外出・外泊訓練などで自助グループとの交流も入院中から積極的に行い、退院後よりスムーズに地域での生活ができるよう支援しています。

2012 年に開院 30 周年を記念し、退院者の予後調査を行いました。対象は 2005 年に当院を退院したアルコール依存症の方です。退院後 1 ヶ月後には約 80%、5 年後には 22.9%が断酒を継続していました。断酒を継続するためには当院で推奨している自助グループへの参加、抗酒剤の服用、通院が深く関わっているというデータが出ています。



<高嶺病院鳥瞰図（全景）>

《精神科訪問看護》

退院前から看護師や作業療法士、精神保健福祉士が患者様の家庭での様子や生活状況、服薬等を確認するため訪問看護を行なっています。独居の方やご高齢の方、合併症をお持ちの方に対し、退院後安心して生活できるようサポートをしております。当院から訪問看護へ行くことが困難な距離にお住いの場合は地域の訪問看護ステーションが利用できるよう調整を行っております。

《家族教室》

当院の家族教室は、ご家族に病気の理解をしていただくために昭和63年から始まりました。毎月第3水曜日の夜間に定期的に開催してきました。2020年より新プログラム編成により、毎月第1・3土曜日の午後に家族勉強会を開催することとなりました。多職種で担当し、様々な角度から病気や治療のことを学ぶ機会となればと考えております。

《夜間例会》

当院では開院以来毎月第2・4水曜日に院内夜間例会を行っています。

夜間例会は依存症の病気の知識と理解を深めるため、入院・通院中の患者さんとそのご家族、職員などが集います。入院して間もない患者さんのご家族は、本人の依存問題により、混乱している人が大半を占めます。それ故、本人の病気の回復を容易には想像ができません。この会に参加して、悩んでいたのは自分ひとりではなかったと気付くことで、依存症に対する認識に変化が生まれていきます。

またこの夜間例会には、当病院を経て回復された方々が数多く参加されており、同じ病気に対する不安と希望を分かち合うことによって、回復への相乗効果をもたらしています。回復者の方もこうしたグループ活動に参加することによって、病気の原点に戻り、過去の自分の振り返りができる場が当院の夜間例会の特色です

《デイケア》

デイケアとは、利用者の皆さんが、生き生きとした自分らしい生活を得るため、ミーティングをはじめ、

スポーツや陶芸などのプログラムを通して依存症からの回復を目指した生活を支援していく場所です。また、通院中の仲間と過ごすことによって、お互いに励まし合える居場所でもあります。



【当院受診の流れ】

当院でははじめての受診の際には予約制をとらせていただいています。まずはお電話でソーシャルワーカーへご相談ください。初診時にはこれまでの生活歴、職歴、飲酒（ギャンブル・ネット等）歴などを詳しくお聞きいたします。その上で診察をおこない、診断や治療方針などのご説明をさせていただきます。

依存症の疾患特性により、ご本人に問題意識がなく受診に消極的な場合が多くあります。その場合はご家族のみのご相談もお受けしております。

依存症は回復可能な病気です。ひとりで抱え込まず、適切な医療を受けることをおすすめします。

専門治療を提供し、回復への道を患者さん、ご家族と共に歩んでいきたいと思っています。



＜創立30周年記念式典 故なだいなだ先生講演＞

医療法人 和同会

所在地：宇部市大字西岐波 229 番地の 3
電 話：0836-51-6222

西中国の医療・福祉を牽引



【法人データ】

理事長：高橋 幹治

設 立：1964 年（昭和 39 年）6 月 24 日

医療施設等：

病院：山口県内に 5 病院（宇部市 3、山口市 1、防府市 1）、広島市内に 3 病院の合計 8 を運営。

各種施設：診療所 1、介護老人保健施設 6、介護付き有料老人ホーム 2 を併設。

附帯施設業務等：

訪問看護ステーション

居宅介護支援事業

指定短期入所生活介護（介護予防を含む）

指定訪問介護（介護予防を含む）

介護予防・地域支え合い事業

指定認知症対応型共同生活介護（含、介護予防）

指定通所介護（介護予防含む）

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

認知症対応型通所介護（介護予防を含む）

特定施設入居者生活介護（介護予防を含む）

疾病予防運動施設

地域支援事業

【理念】

信頼される医療・福祉を目指します

【ご挨拶】

私たちのグループは 1964 年、東京オリンピックの年に開設し、療養・回復期リハ・精神・緩和ケア病床等、主に急性期後・慢性期医療に力を注いできました。現在、山口県では宇部市・山口市・防府市に計 5 病院。広島市内に 3 病院を運営しています。



地域に信頼される医療・介護を提供するため地域の医療施設・福祉施設などあらゆる社会資源と連携を図り、自らも教育や研修にて自己研鑽に取り組んでいます。

今後も地域の中で何が必要かを考え、当法人の憲法第一条である「常に患者様の立場に立って考え、そして行動する」に従いながら地域貢献できればと考えています。

理事長 高橋 幹治

【沿革】

1964 年 3 月	医療法人和同会 設立認可
6 月	認可医療法人和同会 設立登記
11 月	片倉病院 開設
1978 年 5 月	防府温泉病院 開設
1979 年 3 月	宇部温泉病院 開設
1986 年 12 月	岡田病院 開設
1987 年 4 月	山口リハビリテーション病院 開設
1988 年 11 月	介護老人保健施設 山口幸楽苑 開設
1990 年 4 月	岡田病院を、 広島シーサイド病院 と病院名変更
1991 年 3 月	介護老人保健施設 防府幸楽苑 開設
1992 年 12 月	常盤台病院 開設
1993 年 3 月	介護老人保健施設 宇部幸楽苑 開設
1996 年 4 月	広島グリーヒル病院 開設 介護老人保健施設 五日市幸楽苑 開設
1998 年 4 月	広島パークヒル病院 開設 介護老人保健施設 西広島幸楽苑 開設
2002 年 8 月	宇部西クリニック 開設
11 月	片倉病院 全面改築 新本館新築移転
2003 年 3 月	介護老人保健施設 秋穂幸楽苑 開設
4 月	秋穂クリニック開設
2005 年 4 月	宇部温泉病院を、 宇部リハビリテーション病院 と病院名変更 防府温泉病院を、 防府リハビリテーション病院 と病院名変更
2011 年 4 月	介護付き有料老人ホーム 西広島あかり苑 開設
2012 年 6 月	介護付き有料老人ホーム 際波あかり苑 開設
7 月	常盤台病院を全面移転。 宇部西リハビリテーション病院 と病院名変更
2014 年 6 月	【設立 50 周年】
2016 年 2 月	宇部西クリニックを宇部西リハビリテーション病院へ統合

【病院・施設】

《宇部本部地区》 宇部市大字西岐波 229-3



片倉病院

宇部市大字西岐波 229-3 TEL : 0836-51-6222



院長	高橋 幹治
診療科	精神科、神経科、歯科
病床数	229床（認知症治療30床、精神療養162床、精神一般37床）
特徴	認知症の専門的治療、長期入院患者さんへの生活技能訓練、急性期症状の治療等、各病棟の機能を生かした医療の提供をしています。 また、訪問看護、デイケア、デイナイトケアとの連携強化により、入院患者さんの地域移行支援を積極的に推進しています。

宇部リハビリテーション病院

宇部市大字西岐波 229-3 TEL : 0836-51-3111



院長	有山 重美
診療科	内科、リハビリテーション科、神経内科、放射線科、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科、精神科、小児科
病床数	232床（回復期リハビリ40床、医療療養192床）
特徴	地域・併設施設と連携し、在宅復帰及び在宅療養支援を積極的に行っています。高度慢性期医療を提供することにより、急性期病院等からの受け入れを積極的に行い、地域に求められる病院として医療・看護・介護・リハビリテーションを提供しています。

敷地内施設	宇部幸楽苑 介護老人保健施設 宇部あかり園 特別養護老人ホーム
-------	--

《宇部西地区》

宇部市大字沖ノ旦 797 番地 TEL : 0836-45-211



宇部西リハビリテーション病院

宇部市大字沖ノ旦 797 番地



院長	梶原 浩司
診療科	内科、消化器内科、神経内科、脳神経外科、循環器内科、リハビリテーション科、放射線科
病床数	250床（回復期リハビリ81床、地域包括40床、医療療養120床）
特徴	同一敷地内に、入院・在宅医療を提供する宇部西リハビリテーション病院、各種介護保険居宅等事業を担う宇部西在宅総合支援センターを併設し、また際波あかり苑、宇部西あかり苑の2つの有料老人ホームが設置されており、医療・介護の連携が有機的に行われています。また、各種スタッフを病棟担当制とすることによってチーム力を強化し、積極的なリハビリテーションを提供することで早期に在宅復帰して頂ける体制を整えています。

敷地内施設	宇部西在宅総合支援センター 居宅介護支援 際波あかり苑 介護付き有料老人ホーム 宇部西あかり苑 有料老人ホーム
-------	--

《防府地区》

防府市大字台道 1634-1 TEL : 0835-32-1777



防府リハビリテーション病院



院長	角川 正弘
診療科	内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、整形外科、リハビリテーション科、放射線科、眼科、歯科
病床数	311床 (回復期リハビリ 46床、医療療養 215床、介護療養 50床)
特徴	在宅医療から入院医療にわたる医療サービス、疾患別による充実したリハビリテーションの提供を行っています。

敷地内施設	防府幸楽苑 介護老人保健施設 防府あかり園 特別養護老人ホーム
-------	--

《山口地区》

山口市黒川 3380 TEL : 083-921-1616



山口リハビリテーション病院

山口市黒川 3380 TEL : 083-921-1616



院長	加藤 祥一
診療科	内科、神経内科、整形外科、リハビリテーション科、小児科、放射線科、胃腸科、循環器科、歯科
病床数	180床 (回復期リハビリ 124床、医療療養 56床)
特徴	当院は、病気や事故で障害を持った患者さんに対して、創立以来一貫してリハビリテーション医療を提供して参りました。急性期病院から移って来られた患者さんの多くは、病状がまだ不安定で合併症もある場合が多いため、私たちスタッフは脇を固め、一丸となってチームアプローチによる生活目線のリハビリテーション医療を提供しています。更に、小児リハビリ分野においても、地域貢献を致しております。

敷地内施設	山口幸楽苑 介護老人保健施設 山口あかり園 特別養護老人ホーム 山口あかり苑 有料老人ホーム
-------	---

秋穂クリニック

山口市秋穂東 3953 TEL : 083-984-8333



院長	杵築 信明
診療科	内科、放射線科、リハビリテーション科
種類	無床診療所
特徴	介護老人保健施設秋穂幸楽苑 (50床) を併設しています。

敷地内施設	秋穂幸楽苑 介護老人保健施設 秋穂あかり園 特別養護老人ホーム
-------	--

《広島地区》

広島シーサイド病院

広島市南区元宇品町 26-20 TEL : 082-255-1010



院長	多田 恵一
診療科	内科、脳神経内科、リハビリテーション科、放射線科
種類	183床（医療療養183床）
特徴	広島市の南、広島港（宇品）のそばに立地し、瀬戸内海国立公園の一部である元宇品公園が近く、海が見渡せる風光明媚な場所にある病院です。同一建物内に通所リハビリテーション・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所があり、新館では、通所介護・認知症対応型共同生活介護・短期入所生活介護を開設しています。地域の病院、診療所などと連携し、適切な医療・介護サービスの提供に努めています。

広島グリーンヒル病院

広島市佐伯区五日市町下河内 188-6

TEL : 082-929-1110



院長	藤本 三喜夫
診療科	内科、脳神経内科、リハビリテーション科、放射線科
種類	150床（医療療養150床）
特徴	同法人内（同一敷地内）に、介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問看護ステーション、グループホーム、居

宅介護支援事業所、訪問介護、定期巡回、随時対応型訪問介護看護を設置しています。隣接している社会福祉法人広島博愛会内に特別養護老人ホーム・通所介護・居宅介護支援事業所・ケアハウスが設置され、医療・介護・在宅・福祉の連携が有機的に行われています。充実した施設・機能と、充実した教育研修制度等による人材育成とコミュニケーション形成に重点を置き、多様化する患者・利用者・家族等のニーズへの対応を図っています。

敷地内施設	五日市幸楽苑 介護老人保健施設 五日市あかり園 特別養護老人ホーム
-------	--

広島パークヒル病院

広島市西区田方2丁目 16-45 TEL : 082-274-1600



院長	小熊 信夫
診療科	内科、リハビリテーション科、脳神経内科、放射線科
種類	114床（回復期リハビリ46床、医療療養50床、緩和ケア18床）
特徴	同一敷地内に介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、認知症対応型共同生活介護、介護付き有料老人ホームを設置し、在宅医療、介護等との連携を有機的に行い、人と人とのつながりを大切にした医療・リハビリテーションを提供しています。また、地域の医療機関と連携しながら「支える医療」を提供し、地域の医療・福祉の向上を目指しています。

敷地内施設	西広島幸楽苑 西広島あかり苑 介護付き有料老人ホーム
-------	---